

SYLLABUS

2023 年度 秋学期

3年次

青森公立大学

経営経済学部

目 次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
教 養 科 目		美と価値	(2)	選必	皆川俊平・宇野あずさ	1
		異文化の理解	(2)	選必	石本 雄大	59
		遺跡と文化財	(2)	選必	岡田 康博	5
		生命の科学	(2)	選必	長岡 朋人	8
		民法	(4)	選必	安藤 清美	71
キャリア教育科目		事業論Ⅲ	(1)	選必	今泉 清保	11
専 門 科 目	経 営 学 科	会社法Ⅱ	(2)	選択	白石 智則	13
		経営特殊講義Ⅱ	(2)	選択	山下 修平	16
		労働法	(2)	選択	三田村 浩	19
		非営利組織会計	(2)	選択	池田 享誉	22
		職業指導	(4)	選択	三上 雅也	25
		経営倫理学	(2)	選択	藤沼 司	29
		地域企業論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	生田 泰亮	62
		地域社会論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木 てる	65
	経 済 学 科	開発経済学	(2)	選択	大場 裕之	32
		金融機関論	(2)	選択	國方 明	35
		国際金融論	(2)	選択	中條 誠一	38
		公共政策論	(2)	選択	木立 力	41
		経済特殊講義Ⅳ	(2)	選択	中井 大介	44
		会社法Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	白石 智則	13
		労働法【他学科展開科目】	(2)	選択	三田村 浩	19
	地 域 み ら い 学 科	地域と産業政策	(2)	選択	安田 公治	47
		経営革新論Ⅱ	(2)	選択	生田 泰亮	68
		自治体政策法務論	(2)	選択	遠藤 哲哉	50
		環境ビジネス論	(2)	選択	平井 太郎	53
		地域みらい特殊講義Ⅲ	(2)	選択	竹内 紀人	56
		フィールドリサーチⅢ	(2)	選択	足達 健夫	－
					生田 泰亮	
					遠藤 哲哉	
					佐々木 てる	
					長岡 朋人	
					三浦 英樹	
					安田 公治	
		会社法Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	白石 智則	13

目 次

2020年度及び2021年度入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1200～」 「1210～」で始まる学生）

- （1）「経営革新論Ⅱ」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「事業創造論」の読替科目です。
- （2）「税務会計」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「税務会計Ⅱ」の読替科目です。

2019年度以前入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1170～」 「1180～」 「1190～」で始まる学生）

（1）「金融経済学（4単位）」について

- ① 春学期開講の「金融経済学Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「金融経済学Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

- （2）「経営革新論Ⅱ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「事業創造論」の読替科目です。
- （3）「税務会計」は、2019年度以前入学生カリキュラム「税務会計Ⅱ」の読替科目です。
- （4）「自治体政策法務論」は、2019年度以前入学生は履修できません。

〔科目名〕 美と価値	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 皆川俊平 Minagawa Shumpei 宇野あずさ Uno Azusa	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業終了後 場所: 授業実施教室 または メ担当教員へメール	〔授業の方法〕 講義・演習
〔科目の概要〕 本講義では、美術およびデザインに関する歴史を概観しながら、今日の生活・文化における美的感覚との関係性について各教員の専門領域に応じて講義を行います。講義では美の範囲を美術作品に限らず、美的なモノ・コトまで幅広く解釈しています。キーワードは、色彩、写真、アートプロジェクト、地域デザインなどです。 実務経験から得た知識や技能をもとに、最新の現状や現場での実体験をもとに授業を実施することで、現代社会における美と価値の在り方について考えていきます。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 美術は、太古の文明の発達以前から今日まで人類が続いてきたもののひとつです。その理由は、美術は非言語かつ文字に依存しない『伝達手法』であり、美術史の変遷はひとえに『人々のコミュニケーションの在り方の変遷』でもあります。私たちの身の回りには、美術史が息づいているのですが、多くの人はそれをあまり意識しません。それは、知識・教養としての美術史と、生活・文化における美的感覚が断絶しているからです。 本講義では、知識・教養としての美術やデザインの概要を押さえつつ、今日の生活や文化における美的感覚との関係性を明らかにしていきます。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 美術領域のモノ・コトに関する概念的知識を得る。 2. 美術作品の歴史的な発展や社会的影響について理解する。 3. 美術作品を歴史学や考古学など他の領域の視点から考察することで、論理的思考を養う。 4. 講義内容をノートにまとめることで、美術領域について言語表現できる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 昨年度の授業評価において、授業スケジュールの変更や授業の質問等に関する連絡の要望があった。そのため、学生に配慮した伝達方法について検討する。 また演習内容に関して、準備事項の周知を徹底することとする。		
〔教科書〕 使用しない		
〔指定図書〕 特になし		
〔参考書〕 特になし		
〔前提科目〕 特になし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 成績については以下の方法・割合により 100 点満点に換算し評価を行う。 ・各授業回の講義後に実施されるレポート(20%) ・演習課題(30%) ・期末レポート(50%)		

A 80点以上 B 80点未満～70点以上 C 70点未満～60点以上 D 60点未満～50点以上 F 50点未満	
〔評価の基準及びスケール〕 ・レポートについては指定された文字数を考慮し、講義を踏まえた論旨の独自性、明解な文章構成力を評価する。 ・演習課題については、実習・実技等に該当する技術の巧拙は求めず、下記を評価する。 1) 主体的な発案、コミュニケーション 2) 考えを他者に伝えるための創意工夫 3) 適切な伝達手法の選択・判断	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本授業は、各学部・学科の主たる学びとは異なるものとなるが、それらの見識を広げる、または深めることを目的として実施するものである。そのため、学生各自の専門性に基づいた、主体的な考えを持ち授業へ取り組むことを望む。	
〔実務経歴〕 両教員とも、デザインに関する高等教育機関での講義・実習等の指導経験、実務経験を有し、また美術家としての活動経験を有する。これら実務経験に基づいた講義・演習を行う。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):地域社会×美術 内 容: 美術やデザインによる思考法やマネジメント(人・もの・情報をつなぐ手法)は、まちづくりや地域おこしなどに応用しています。初回はガイダンスを含め、担当教員がこれまで実践したアートプロジェクトやデザインプロジェクトを紹介しながら、今日における美的感覚の展開について解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第2回	テーマ(何を学ぶか):写真史-複製による記録/記憶-【演習】 内 容: 視覚的情報を伝達する写真は、現代社会において欠かすことのできない重要な役割を担っています。写真史の概観し、ポートフォリオ作成やカメラ・オブ・スクラの制作などの演習を交えながら、写真がもつ記録性や複製技術によって変化した記憶について解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第3回	テーマ(何を学ぶか):色彩学【演習】 内 容: ポスターやパンフレット、ファッション、インテリア、建物、景観や自然。わたしたちの身の回りには様々な色があり、色彩は様々な表現に欠かせません。色彩について基本的な知識、配色による心理的効果など色の持つ性質について配色テクニックによる演習を交えながら、解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第4回	テーマ(何を学ぶか):描くことと書くことについて 内 容: 美術を初めとした芸術に関する行為は、近代以降「個人の考えや意思の発露」となっています。すなわち意見やアイデアを自己から他者へと伝達するコミュニケーションまたは自己の内から外へのアウトプットとなります。そのうえで、コミュニケーションとアウトプットの手法である描くことと書くことの違いについて考えながら、美術制作を行う意味や意図を探っていきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第5回	テーマ(何を学ぶか):場所の声を聴く 内 容: 美術制作を行う際に、いったい何からインスピレーションを得るのでしょうか。自己の内面から発現するものもあれば、外的要因の影響を受けることもあります。この外的要因として、日常を改めて見直し、「場所」や「土地」への意識的な働きかけを行う作品や制作手法を解説します。

	教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第6回	テーマ(何を学ぶか):物を見る、事を見つめる 内 容: インスピレーションの源泉としてのインプットを、今度は物や事に対象を変えて考察します。事物を見つめる目は、単純に「見る」という行為だけでなく、見えないものを類推するための深い観察・洞察も重要です。目に見える事柄から、見えない関係性を見出すまでの思考プロセスを解説します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第7回	テーマ(何を学ぶか):話すことと放すことについて【演習】 内 容: よく、コミュニケーションを「言葉のキャッチボール」と例えることがありますが、美術は何らかの情報を伝達する行為と見なすこともでき、芸術の鑑賞は作品や体験を通じた、作者と鑑賞者との共創的な創造行為です。これを踏まえ、視覚表現や身体表現のさまざまな在り方を解説し、また、簡易な演劇手法による【演習】を通じ、共創的な体験を創造します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第8回	テーマ(何を学ぶか):テーマ、コンセプト、モチーフ【演習】 内 容: 前週の【演習】の発表を引き続き行います。 美術作品の鑑賞や制作では、テーマとコンセプト、またモチーフなどの用語がしばしば混同されていることがあります。これら用語の適切な意図を把握することで、鑑賞や制作の筋道を明確にしていきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第9回	テーマ(何を学ぶか):文化の引用と盗用 内 容: 様々な民族に固有の文化があり、そのような文化は他の文化、とりわけ今日の美術やデザインに大きな影響を与えてきました。美術史的観点から文化と美術の相互作用を解説しつつ、今日問題となっている文化の盗用を、美術だけでなく音楽なども含めた芸術全般と社会との関係から考察していきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第10回	テーマ(何を学ぶか):祭りと祀り / 境界における美の考察① 内 容: 民族と文化、すなわち民俗学的視点から、今日の美術の状況を概説します。特に「地域」を舞台としたさまざまな取り組みを、美術史を拡張し民俗と生活史の観点から考察していきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第11回	テーマ(何を学ぶか):美術におけるジェンダー/ 境界における美の考察② 内 容: 美術・芸術への学びを深めると、その根底には支配と隷属、またマジョリティとマイノリティといった、近代以降に顕著となった社会的課題が、今日も未だに解決せず横たわっていることに気づきます。とりわけ、政治的背景や民族、そしてジェンダーといった課題が明らかとなりますが、これらが「美」として昇華され社会への問題提起に変わっていく過程を、聖と俗の境界の反転性から考察していきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第12回	テーマ(何を学ぶか):歴史的価値・文化的価値としての美術 内 容: これまでの講義を踏まえ、歴史的価値と文化的価値の双方から、美術が社会にもたらす価値を解説・考察します。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
第13回	テーマ(何を学ぶか):経済的価値としての美術 / 美術市場 内 容: これまでの講義の一方で、現代の美術には商業的な価値もあります。今日の美術市場を概説しつつ、多面的な美術の価値について理解を深めていきます。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。

第 14 回	テーマ(何を学ぶか):美を図る(測る)ための価値とは何か 内 容: これまでの講義を踏まえ、「正解」の無い問いである『美』に対し、受講者それぞれの「価値」を定めていきます。講義全体のリフレクションを主体に、受講者相互の知識や経験を共有するコミュニケーションとしてのワークショップを行います。 教科書・指定図書なし。適宜資料を配布します。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):美を図る(測る)ための価値とは何か 内 容: これまでの講義を踏まえ、「正解」の無い問いである『美』に対し、受講者それぞれの「価値」を定めていきます。講義全体のリフレクションを主体に、受講者相互の知識や経験を共有するコミュニケーションとしてのワークショップを行います。 教科書・指定図書 なし。適宜資料を配布します。
試 験	試験は行わず、期末レポートとする。

〔科目名〕 遺跡と文化財	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 岡田 康博 OKADA Yasuhiro	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義及び現地見学
〔科目の概要〕 ・県内に所在する多種多様な文化財、文化遺産を地域資源として捉え、その保存活用について基本的な事項を学ぶとともに自ら具体的な方法等を提案する。 ・そのためのケーススタディーとして縄文遺跡を取りあげ、最新の研究成果に基づく縄文社会の実像や当時の生活や文化などについて知り、その価値や魅力、地域資源としての可能性を考え、地域づくりや活性化、人材育成に活かす方策などを探る。 ・遺跡や文化財を通して地域社会の重要性や可能性を考えるため、考古学の成果も参考とするが、考古学・歴史学の講義ではない ・最近注目されている世界遺産についてもその趣旨や制度を理解し、効果や課題などについて考える。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・日本における文化財保護の仕組みや課題について知ることにより、文化財保護や活用の基本的な考え方や思想を整理、確認するとともに地方自治体等が行う文化財保護行政の本来のあり方や課題を具体的に知る。 ・さらに地域の遺跡や文化財をどのように保護し、さらに多様な活用方法を検討することにより、自分自身が街づくりや地域づくりのプランナーとして、あるいは一住民やボランティアとして将来活動、参加する際の貴重な体験ともなる。 ・最近、注目されている世界文化遺産について、理念、登録までのプロセス、課題等を知ることにより、世界文化遺産をより身近な地域の話題として、受け止めることができる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ・日本における文化財や文化遺産保護の仕組み、活用を中心とした文化財保護行政の現状と課題について知る。 ・ケーススタディーとして、縄文文化に関する最新の研究成果をもとに、三内丸山遺跡をはじめとする縄文遺跡の特徴について理解する。 ・世界文化遺産について、その理念や登録までプロセス、方法、課題等を知り、さらに登録後の状況も知る。 ・地域資源としての遺跡や文化財の特徴を活かした多様な活用についての計画案を作成することを最終目標とする。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・三内丸山遺跡の現地見学を含め、ビデオやスライドなどの映像資料を多く使用し、より多くの事例を紹介し、具体的なイメージを構築できるような講義とする。 ・縄文遺跡に関しては、衣食住など生活に関する項目を取り上げ、より生活感があり遺跡や文化財について親しみを持てるようにする。 ・毎回、講義内容についての資料を配付する。		
〔教科書〕 ・使用しない。必要な資料は教員が作成し、配付する。		
〔指定図書〕 ・必要ときに提示する。		
〔参考書〕 『世界遺産になった！縄文遺跡』岡田 康博編 同成社 2021		
〔前提科目〕 な し		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・中間試験として遺跡観察レポート、定期(期末)試験として課題レポート(テーマや内容については授業中に提示する)を提出してもらい、総合的に評価する。		

〔評価の基準及びスケール〕 ・遺跡観察レポート、課題レポート、出席状況により成績評価を行う。毎回、出席の確認を行い、出席が少ない場合には評価の対象としない。 遺跡観察レポート 20点 課題レポート 80点 A:100～80、B: 80～70、C: 70～60、D: 60～50、F: 50～0	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 文化庁や長年にわたる文化財保護行政の実務経験をもとに、実務的な遺跡や文化財の保存活用に関する最新情報を提供し、文化財保護法や文化財保護の仕組みについても具体例を用いながらの解説を心懸けている。また、縄文遺跡研究の最新の成果を紹介するとともに、日本では数少ない、遺跡の保存・活用の成功例として三内丸山遺跡の調査成果やこれまでの経過、行政的な取り組み等について実際に関わったものとしての体験談を伝え、地域の遺跡や文化財をどのように活用するのか、加えて地域づくりや活性化、人材育成への活かし方について講義全体を通じて具体的な活用方法を考えて欲しい。さらに最近注目されている世界遺産についても効果や課題についても取り上げる。	
〔実務経歴〕 県職員として文化財保護行政及び世界遺産登録推進、文化庁文化財調査官として豊富な実務経験がある。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡、文化財について 内 容: 遺跡や文化財の種類や定義、日本における文化財保護の仕組み、文化財保護法について知る。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 縄文遺跡について 内 容: 縄文遺跡について基礎的な内容について知る。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 縄文時代のムラ(遺跡公園)を歩く 内 容: 三内丸山遺跡の現地見学を行い、縄文のムラの様子を知る 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存方法について 内 容: 三内丸山遺跡内で行われているさまざまな文化財の保存方法を知る。遺跡見学レポートの提出。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 縄文時代の暮らしについて 内 容: 発掘調査が語る当時の環境や生業、生活などを知る。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 三内丸山遺跡における活用の現状について 内 容: 遺跡の保存の経緯を知り、公開・活用の効果等について知る。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(1) 内 容: 活用の観点から縄文時代の衣食住について考える。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(2) 内 容: 活用の観点から縄文人の精神世界や価値観を考える。 教科書・指定図書

第9回	テーマ(何を学ぶか): 世界遺産について 内 容: 世界遺産の理念、登録の仕組み等を知る。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか): 世界遺産について 内 容: 世界遺産の効果、現状、課題等を知る。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(3) 内 容: 活用の観点から縄文人の生活を復元する。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存活用について(4) 内 容: 活用の観点から縄文時代のムラや住居を復元する。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡を保存、活用する(5) 内 容: 活用の観点から縄文時代のムラや住居を復元する。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡を保存、活用する(6) 内 容: 遺跡や文化財の保存、活用について海外の事例について知る。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか): まとめ 内 容: 講義内容を整理し、レポート作成にあたってのポイント、留意点を解説する。 教科書・指定図書
試 験	課題レポート提出

〔科目名〕 生命の科学	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 長岡朋人	〔オフィス・アワー〕 時間: 在室時 場所: 605 研究室	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 本講義は、私たちの身体を形作っている生物学的基礎の学習を通して、科学リテラシーを涵養することを目的とします。生物学はヒトと環境を理解する基礎となるとともに、私たちが歩んできた進化の道筋を解き明かしてくれます。生物学は細胞や組織から身体、環境、生態まで幅広い領域を範疇とし、自然科学、人文社会科学の多様な分野と学際的な接点を持っています。本講義は、生物学の多様な分野を視野におさめ、ときには研究の現場のトピックをまじえながら、分子生物学、神経科学、行動生態学、進化学の講義を行います。高校における生物の履修を前提としませんが、講義内容は大学教養レベルの内容です。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 批判的思考 私たちは生物学や医学に密接にかかわる場面で生活しています。科学の知識は常に進歩していき、当たり前だと思った知識も色褪せていきます。身近にある当たり前の事柄に疑いを持ち、情報を取捨選択するための基礎知識を涵養します。 2. 専門分野との学際的接点 本科目と経営経済学との学際的接点(たとえば進化ゲーム理論は経済学にも関わりがあります)により、学生の知的好奇心を高めることができると確信しています。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 1. 最終目標 (1)書籍やインターネットの情報を検索・取捨選択し正しく引用できること、(2)自分の言葉で情報を整理し意見を述べるができること、(3)生物学に対する批判的思考を身につけることです。 2. 中間目標 (1)膨大な情報量を持つ学問領域を知ること、(2)科学リテラシーを身につけることです。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 不真面目な学生が講義中にスマホゲームや私語によって周りの学生に迷惑をかけているという点について、この点は教員から学生に注意すべきことかと受け止めています。講義資料の不鮮明さは改善しました。		
〔教科書〕 指定なし		
〔指定図書〕 「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)、「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)、「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)、「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995年)		
〔参考書〕 なし		
〔前提科目〕 健康と医療、もしくは科学技術と社会を受講していることが望ましい。		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 講義時の課題への取り組み、期末試験、レポートにより評価します。マークシートによる試験を行うこともあります。毎回の講義で課す課題シートは後日提出を認めません。		
〔評価の基準及びスケール〕 Aは80点以上、Bは70～79点、Cは60～69点、Dは50～59点、Eは49点以下と評価します。全講義回数の3分の1(講義回数が15回であれば5回以上)の欠席者(欠席届提出分は除く)はF評価とします。また、試験の無断欠席者、レポートの未提出者・遅延者はF評価とします。 <u>欠席届は事務局で認めた場合のみ受け取ります</u> が、それ以外の欠席は例		

外なく欠席としてカウントします。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 1. 受講の姿勢 (1)生物学に関するトピックをもとに、当たり前と思っていた事柄に対して批判的な思考を身につけましょう。(2)生物学に関わる膨大な情報量を理解するために、講義を聴きながらノートでメモを取る必要があります。講義への積極的な参加を希望します。講義の難易度は高校の理科よりも難しいレベルであり、復習が欠かせません。漠然と講義を受けるだけでは理解できないため、講義を受講しながらメモを取る癖をつけましょう。 2. 学生への要望 (1)遅刻・欠席は控えてください(すべての講義に出席できる方が受講してください)。(2)講義で分からないことは質問してください。(3)受動的な姿勢で受講しないでください。講義中の私語、携帯電話、スマホゲームの利用は禁じます。(4)マスクや手指消毒を行い感染対策に努めてください。	
【実務経歴】 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内 容:本講義の目的、内容、評価方法について理解を深める。 教科書・指定図書 なし
第2回	テーマ(何を学ぶか):生命倫理 内 容:生命倫理に関する講義です。生命倫理が誕生した背景、医学研究をめぐる倫理指針(ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言)、インフォームドコンセント、臓器移植や再生医療をめぐる倫理的問題について理解します。 教科書・指定図書 「バイオエシックス入門」(今井道夫・香川知晶、東信堂、1995 年)
第3回	テーマ(何を学ぶか):分子生物学 内 容:核酸、DNA、遺伝子の本体、タンパク質合成、遺伝子発現について理解を深める。 教科書・指定図書 「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016 年)
第4回	テーマ(何を学ぶか):分子生物学 内 容:核酸、DNA、遺伝子の本体、タンパク質合成、遺伝子発現について理解を深める。 教科書・指定図書 「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016 年)
第5回	テーマ(何を学ぶか):神経科学 内 容:中枢神経の構造と機能について理解を深める。 教科書・指定図書 「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018 年)
第6回	テーマ(何を学ぶか):進化 内 容:進化のしくみについて理解を深める。 教科書・指定図書 配布資料
第7回	テーマ(何を学ぶか):行動生態学 内 容:行動生態学について理解を深める。 教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015 年)
第8回	テーマ(何を学ぶか):行動生態学 内 容:行動生態学について理解を深める。 教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015 年)

第9回	テーマ(何を学ぶか):行動生態学 内 容:行動生態学について理解を深める。 教科書・指定図書「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015 年)
第10回	テーマ(何を学ぶか):行動生態学 内 容:行動生態学について理解を深める。 教科書・指定図書「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015 年)
第11回	テーマ(何を学ぶか):進化と行動 内 容:利己的遺伝子と種の保存について理解を深める。 教科書・指定図書「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015 年)
第12回	テーマ(何を学ぶか):ヒトの生物学 内 容:ヒトの進化について理解を深める。 教科書・指定図書 配布資料
第13回	テーマ(何を学ぶか):ヒトの生物学 内 容:ヒトの進化について理解を深める。 教科書・指定図書 配布資料
第14回	テーマ(何を学ぶか):ヒトの生物学 内 容:ヒトの進化について理解を深める。 教科書・指定図書 配布資料
第15回	テーマ(何を学ぶか):ヒトの生物学 内 容:ヒトの進化について理解を深める。 教科書・指定図書 配布資料
試 験	期末試験

〔科目名〕 事業論Ⅲ	〔単位数〕 1 単位	〔科目区分〕 キャリア教育科目
〔担当者〕 今泉 清保 Seiho Imaizumi	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 ・自分のキャリアをどう作っていくか、自分の将来をイメージする ・ニュースがどうやって出来るかを知り、情報をどう集めるか、またメディア・リテラシーについて考える ・インタビューをする側、される側をそれぞれ体験し、インタビュー記事を書く ・自分が見たい、見てもらいたい番組を、内容、ターゲット層、放送時間帯などを考えて企画書を作る ・イベントを企画し、プレスリリースを作成して「魅力ある発信」について考える ・地域について取り上げたニュース企画を視聴して、地域の魅力や課題について考える ・さまざまなキャリアを持つ人を取り上げたニュース企画を視聴して、自分のキャリアデザインを考える		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現役アナウンサーによる、放送局の仕事をベースにして自分を表現し発信することについて考える講義です。 SNSで個人が自由に情報発信できるようになった現在、正しくわかりやすい情報を発信する能力は、今後どんな職種に就くとしても求められます。 また、自分の個性や魅力をわかりやすく伝えることは、今後の就職活動において、エントリーシートの作成や面接の際に必要となります。 講義を通して、自分の中の引き出しに何があり、何を取り出してどう伝えたら自分のことを相手に理解してもらえるか考え、キャリアデザインに役立てて欲しいです。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ・情報を整理してわかりやすく伝えられるようになる ・ニュースや情報にどう接し、どこに視点をおいて伝えるか考えられるようになる ・相手に適切な質問ができるようになる ・暮らしている地域のことに興味を持てるようになる ・自分のいいところ、経験したことなどを的確に人に伝えられるようになる ・自分の言葉で文章が書けるようになる		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業評価が全体的に好評だったため、内容に大きな変更はありません。「テレビ」に加えて「ユーチューブ」「SNS」などの内容も加えています。		
〔教科書〕 講師作成資料		
〔指定図書〕 なし		
〔参考書〕 なし		
〔前提科目〕 なし		

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 各回の講義内容やテーマにそって、ミニレポートを講義中に書き、講義終了時に提出します。 提出された7回分のレポートをそれぞれ採点し、合計得点でグレードが決まります。	
【評価の基準及びスケール】 講義内で記入してもらったレポートについて、テーマに沿った内容か、適切な文章が適量な分量で書けているか、企画や視点に独創性があるか、読み応えがあるかなど総合的に判断して10点満点で採点します。 レポートの合計点でグレードが決まるため、欠席すると提出できなかったレポート分の合計点が下がり、評価も下がります。欠席が多い場合は、合計点が単位取得基準に届かないこともあります。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 ニュースや情報番組を作るときに大切なのは、相手のことをよく知り、知り得た情報をいかにわかりやすく伝えるか、ということです。これは就職活動における「会社を知る」「自分のことを伝える」に繋がります。 自分で考えた発想、相手から聞いた話、見た番組の感想などを、自分の言葉で「読み手に伝わるように」書く力を、7回のレポート提出でつけていきます。筆記用具は必ず持参してください。	
【実務経歴】 福岡放送アナウンサーを経て、東京でフリーアナウンサーとして番組出演多数。主なものに「めざましテレビ」「アッコにおまかせ」「はなまるマーケット」など。2011年青森テレビ入社。「ATV ニュースワイド」キャスターなどを担当。現在は「わっち!!」木曜中継担当など。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 自分のキャリアを考える 内 容: 講師や本学卒業生のキャリアから、これからどんなキャリアを形成するか考える 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): ニュースについて考える 内 容: テレビニュースができるまで 取材の基本 メディアリテラシー 自分の人生のニュースとは 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): インタビューとは 内 容: インタビューの基本 インタビューをして記事を書いてみる 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 番組の企画とは 内 容: 人に「見せたい」番組を考え企画書を作る テレビとユーチューブの違い 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 魅力あるイベントとは 内 容: イベントを企画しマスコミ向けに「取材してみたい」プレスリリースを作成する 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 地域について考える 内 容: 地域のことを取り上げたニュース企画を視聴し、地域の暮らしや問題について考える 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 自分の魅力はなにか、目指すキャリアはなにかを考える 内 容: さまざまなキャリアを持つ人を取り上げたニュース企画を視聴し、目指すキャリアを考える 教科書・指定図書
試 験	なし 毎回提出するレポートにて評価

〔科目名〕 会社法Ⅱ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 白石 智則	〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 本講では、春学期の「会社法Ⅰ」の講義とあわせて、「会社法」（平成 17 年法律第 86 号）が定める基本的な法制度（特に株式・資金調達・設立・組織再編）について学びます。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。		
〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕 「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続きパワーポイントを利用して講義を行います。		

〔教科書〕 拙著『会社法の教科書〔第2版〕』（2023年）〔税込1100円〕 （前期の「会社法Ⅰ」で使用したものと同一、流通ルートに乗せていない自家版の教科書です。公立大の生協で購入してください。）	
〔指定図書〕 な し	
〔参考書〕 中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』（有斐閣、第2版、2021年） 江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣、第8版、2021年） 高橋美加ほか『会社法』（弘文堂、第3版、2020年） 田中亘『会社法』（東京大学出版会、第4版、2023年） 岩原紳作ほか編『会社法判例百選』（有斐閣、第4版、2021年）	
〔前提科目〕 な し	
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 授業内試験（小テスト（10％）と期末試験（90％））により評価します。 小テストを各講義日に実施します（全8回）。授業を聞いていれば分かるような、簡単な選択問題を出題します。Google Formを使用して試験を行いますので、指定のURLから受験してください。 期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出題します（持込不可）。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の3分の2以上出席していない者は失格とします。	
〔評価の基準及びスケール〕 原則として、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、50点以上をDとしますが、平均点しだいで基準点を調整します。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 熱意をもって受講してくれることを期待します。	
〔実務経歴〕 な し	
授業スケジュール	
第1回	テーマ（何を学ぶか）： 総論・機関 内 容： 会社法Ⅰの復習、会社法Ⅰの定期試験の採点雑観 教科書 拙著『会社法の教科書』第1章・第2章
第2回	テーマ（何を学ぶか）： 株式(1) 内 容： 株式の内容（株式とは、株主の義務・権利、株主平等の原則、） （講義終了後、第1回小テスト） 教科書 拙著『会社法の教科書』第3章Ⅰ1～4
第3回	テーマ（何を学ぶか）： 株式(2) 内 容： 株式の内容（株式の内容についての特別の定め、種類株式） 教科書 拙著『会社法の教科書』第3章Ⅰ5・6

第4回	テーマ（何を学ぶか）： 株式(3) 内 容： 株式の譲渡 （講義終了後、第2回 小テスト） 教科書 拙著『会社法の教科書』第3章Ⅱ
第5回	テーマ（何を学ぶか）： 株式(4) 内 容： 自己株式、株式の大きさ 教科書 拙著『会社法の教科書』第3章Ⅲ・Ⅳ
第6回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の資金調達(1) 内 容： 株式会社の資金調達（資金調達の方法、新株発行とは、新株発行の方法） （講義終了後、第3回 小テスト） 教科書 拙著『会社法の教科書』第4章Ⅰ・Ⅱ 1～3
第7回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の資金調達(2) 内 容： 株式会社の資金調達（新株の発行手続、新株発行の差止請求、新株発行の無効の訴え） 教科書 拙著『会社法の教科書』第4章Ⅱ 4～7
第8回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の資金調達(3) 内 容： 株式会社の資金調達（新株予約権の発行等、社債の発行等） （講義終了後、第4回 小テスト） 教科書 拙著『会社法の教科書』第4章Ⅲ・Ⅳ
第9回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の計算(1) 内 容： 株式会社の計算（会社法会計、会計帳簿、計算書類等） 教科書 拙著『会社法の教科書』第5章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 1～5
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の計算(2) 内 容： 株式会社の計算（決算手続、資本金と剰余金） （講義終了後、第5回 小テスト） 教科書 拙著『会社法の教科書』第5章Ⅲ 6～8・Ⅳ
第11回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の設立(1) 内 容： 株式会社の設立（設立の概要、定款の作成） 教科書 拙著『会社法の教科書』第6章Ⅰ・Ⅱ
第12回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の設立(2) 内 容： 株式会社の設立（出資者の確定、出資の履行、機関の具備、設立登記、発起人等の責任等） （講義終了後、第6回 小テスト） 教科書 拙著『会社法の教科書』第6章Ⅲ～Ⅶ
第13回	テーマ（何を学ぶか）： 組織再編(1) 内 容： 組織再編（組織再編の種類、事業譲渡、合併） 教科書 拙著『会社法の教科書』第7章Ⅰ～Ⅲ
第14回	テーマ（何を学ぶか）： 組織再編(2) 内 容： 組織再編（会社分割、株式移転・交換、株式交付）、株式会社の解散・清算 （講義終了後、第7回 小テスト） 教科書 拙著『会社法の教科書』第7章Ⅳ～Ⅵ・第8章
第15回	テーマ（何を学ぶか）： 授業内試験（期末試験）・解説 内 容： 授業内試験（期末試験）・解説 教科書 拙著『会社法の教科書』第3章～第8章
試 験	筆記試験（四択問題・論述問題）（第15回の講義中に行います）

〔科目名〕 経営特殊講義Ⅱ(会計史)	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 山下 修平 Yamashita Shuhei	〔オフィス・アワー〕 時間: 講義開始前後のほか、メール対応 場所: 講義室など	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 本講義は、会計の歴史の概要を理解することを目的とします。 具体的には、会計の起源や複式簿記の誕生から始めて、ヨーロッパにおける複式簿記の伝播や、株式会社会計の起源と発展等を扱い、現代における会計のグローバル化までを解説します。また、後半の 6 回程度を割いて、日本における会計史を解説します。 時代の変化とともに、誰かに「説明する」行為や、「記録と管理」の内容は変遷していきました。会計を取り巻く環境の変化により、会計は発展してきました。本講義では、会計が誰に何を求められてきたかを考えます。歴史を学ぶことにより、今起きている事象や、今後の世界情勢の変化への対応に、応用して欲しいと願っています。 現代の会計トピックに関連させながら、講義を進める予定です。現代の会計に関する諸問題を理解するためにも、会計の歴史を一緒にひも解いていきましょう。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」〕 ・他の科目との関連付け 会計に関する科目:「会計学基礎論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」など。 会計史は、会計の歴史ではありますが、その背景にある経済事象の歴史、企業の歴史、経営の歴史にも強く関連します。幅広く視野を持ちながら学んで欲しいと思います。 ・学ぶ必要性と意義 会計史研究は、文字通り、会計研究と歴史研究の境界に位置する学問です。歴史を学ぶ意義を説明するのは容易ではありませんが、実験室での完全再現が不可能な社会科学では、歴史に学び、現状を分析し、未来を予測することは大切な作業です。本講義では、会計を対象として歴史を学び、現在の会計の問題を見つめたいと思います。 おそらく、会計史を学ぶことが、すぐに会計実務に生かされることや、就職活動を有利に進めること、お金を稼ぐことに結びつくことはありません(残念ながら)。しかし、経営経済学部在籍する学生の「教養」として学んでほしいと願っています。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (中間目標) 会計の歴史の概要を理解することを目標とします。 (最終目標) 会計がどのように発達してきたのかを歴史的に学ぶことにより、現代の会計がどのように成立したのかを理解します。加えて、現代の会計に係る諸問題をより深く理解することを目標としています。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 これまでの授業において、「会計」「簿記」に苦手意識を持つ受講生が多くいました。そのため、「簿記を苦手としている学生にとってわかりやすい講義」を心がけてきました。必要な会計の知識は、復習をしながら講義を進めています。この点はおおむね好評でしたので、今年度も同じ方針で臨みます。会計や簿記を苦手としている学生の受講を歓迎します。板書のスピード、または、レジュメ配付の頻度など、授業の進め方について様々なコメントを頂戴しております。履修者の皆さんの声に耳を傾けながら、バランスよく講義を進めたいと思います。		
〔教科書〕 教科書は指定しません。教員が作成したスライドやプリント、板書を用いて講義を行います。		

〔指定図書〕 野口昌良・清水泰洋・中村恒彦・本間正人・北浦貴士編『会計のヒストリー80』中央経済社、2020年。	
〔参考書〕 千葉準一・中野常男編著『会計と会計学の歴史(体系現代会計学第8巻)』中央経済社、2012年。 渡邊泉著『会計の歴史探訪―過去から未来へのメッセージ』同文館出版、2014年。 遠藤博志・小宮山賢・逆瀬重郎・多賀谷充・橋本尚編著『戦後企業会計史』中央経済社、2015年。 友岡賛著『日本会計史』慶應義塾大学出版会、2018年。 上野清貴編著『日本簿記学説の歴史探訪』創成社、2019年。 中野常男・清水泰洋編著『近代会計史入門 第2版』同文館出版、2019年。 このほか、講義中に適宜紹介します。	
〔前提科目〕 特にありません。ただし、「会計学基礎論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」などの会計学に関する科目を履修していると、より理解が深まると思います。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験を行います。 講義毎に課題(小テスト・小レポート・リアクションペーパー等)を課します。 <点数の配分> 期末試験(まとめの試験) : 40点(40%) 講義毎の課題 : 4点×15回 = 60点(60%)	
〔評価の基準及びスケール〕 ・80点以上 : 評価A ・70点以上80点未満 : 評価B ・60点以上70点:評価C ・50点以上60点未満 : 評価D ・50点未満 : 評価F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・会計や簿記を得意とする学生だけでなく、苦手としている学生の受講を歓迎します。 ・前提となる会計学や簿記の知識に触れながら講義を進めますが、復習しておくとうれしいです。 ・該当する時期の世界史や日本史を復習しておくとうれしいです。 ・受講者の積極的な発言(質問・意見)を期待します。 ・現代における会計諸問題と結びつけながら、講義に臨んでください。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 会計史とは 内 容: 講義全体の概要を説明します。会計史を学ぶ意義についてお話しします。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第2回	テーマ(何を学ぶか): 会計の起源と複式簿記 内 容: 古代における会計の起源と、イタリアで誕生した複式簿記について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第3回	テーマ(何を学ぶか): ヨーロッパにおける複式簿記の伝播 内 容: ヨーロッパ(イタリア～オランダ～イギリス)において伝播した複式簿記の歴史的背景を解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。

第4回	テーマ(何を学ぶか):株式会社の誕生と会計 内 容:株式会社の誕生が会計の発展に与えた影響について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第5回	テーマ(何を学ぶか):固定資産会計の生成 内 容:固定資産会計、とくに減価償却の考え方や、その生成と発展について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第6回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表の生成と発展 内 容:貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書などの財務諸表の生成と発展について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第7回	テーマ(何を学ぶか):管理会計の生成と発展 内 容:工業化に伴って生成・発展した管理会計について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第8回	テーマ(何を学ぶか):職業会計人の誕生と監査 内 容:イギリスにおいて誕生した職業会計人と監査業務の変遷について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第9回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史 日本の伝統簿記、西洋簿記の導入 内 容:江戸時代における日本の伝統簿記を紹介し、明治維新後の西洋簿記の導入を解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第10回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史 明治時代～昭和初期 内 容:西洋簿記の伝播、減価償却の導入、商法制定の影響、戦前の監査、会計プロフェッションの誕生について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第11回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史 戦時期 内 容:統制経済期における会社経理統制の展開について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第12回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史 戦後日本の企業会計体制 内 容:企業会計原則の制定、証券取引法の制定、公認会計士による監査制度の導入などについて解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第13回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史 公認会計士法と監査法人制度の変遷 内 容:戦後日本における公認会計士法と監査法人制度の変遷について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第14回	テーマ(何を学ぶか):粉飾決算事件の事例と、その対応の歴史 内 容:世界と日本における粉飾決算事件の事例を紹介し、その対応の歴史を解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第15回	テーマ(何を学ぶか):会計ビッグバン、会計のグローバル化、そして今後の展望 内 容:会計ビッグバンの時代背景と会計制度の特徴について解説します。また国際会計基準の整備と、世界各国や日本の動向を解説します。そして今後の展望を検討します。 教科書は使用しません。指定図書は別記のとおりです。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
試 験	期末試験(まとめの試験)を実施します。 講義のプリント資料や、ノートの持ち込みは可(ノートは自筆のみ)。

〔科目名〕 労働法	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 三田村 浩 Hiroshi Mitamura	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 ・企業に就職する際、その企業と労働契約を締結し、一定の労働条件の下、労働者は労務を提供し、その代償として賃金を受け取ることになる。そこでは、使用者(企業)も労働者も、労働基準法などの法律や就業規則において、会社における行動などが規律されており、紛争防止の見地からも正しく理解・把握しておく必要がある。 ・本講義では、個別的労働関係法の分野に属する労働基準法を中心として、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等、その他の労働関係法についても、時間の許す限り紹介する。憲法、民法及び商法(会社法)といった他の法律との関連も考察しながら、実務の分野にも目配りした幅広い講義を構成する。 ・学説及び判例を通じて、単に法的知識習得だけでなく、リーガルマインド(法的思考力)も養うことを目的とする。 ・時にはアルバイトなどで経験する身近な紛争を題材にしながら、いかに対処・解決していくべきか、行政機関による救済の活用を認識した上で、これを探る。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・まずは労働基準法を概観し、事例・判例を通じて、就職する際に、労働者として自分の身を守るべく必要最低限の法的知識を取得し、ビジネス法全般の基礎的学習として位置付ける。 ・他のビジネス法関連科目と併せて、社会人として必要な知識を取得する。 ・リーガルマインド(法的思考力)を養いながら法的知識を得ることで、社会人になってから遭遇するであろう様々な労働問題に対して、適切に対処できるようになる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ・最終的には、労働法の知識を利用して、アルバイトや就職で遭遇する様々な労働問題に際して、冷静かつ的確な対処ができるようになることであり、そこでは、実際に問題が起こったときに、単に主張するのみならず、状況をしっかり把握した上で、当事者間で円満に解決が図られるように、リーガルマインドを備えながら考察する必要がある。 ・この最終目標に向けて、毎回授業で取り上げる重要項目を学習し、着実に法的知識を積み上げながら、労働問題に潜む背景をも踏まえ、真の解決あるいは最善策に向けて対処法を学んでいく。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・受講ルールは初回に資料とともに詳しく説明するが、欠席学生を想定し、授業内で適宜確認する。 ・毎時間、コメント用紙に学んだことをまとめてもらうが、質問・要望・感想もコメントしてもらうことで、授業方法に問題があれば早急に対処する。 ・受講生が必要最低限の知識を取得できるように板書を工夫し、作成した講義ノートは、予習・復習用の補助教材として確立する。 ・判例や新聞記事を利用して、できるだけ身近な最新の話題を提供することで、まずは労働法に興味を持ってもらえるように工夫する。 ・配布資料の活用や確認テストを通じて、理解度を深めていく。		
〔教科書〕 小畑史子、緒方桂子、竹内(奥野)寿、『労働法(第4版)』、有斐閣。		

〔指定図書〕 講義の中で適宜提示。	
〔参考書〕 講義の中で適宜提示。	
〔前提科目〕 特になし。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・期末テストとして、レポート課題(2題)を評価する(50%)。なお、課題内容は、授業で扱った労働法の論点から出題し、授業内で発表する。 ・コメント点として、コメント用紙を利用して、毎回の授業終了前に授業内容に対するコメント(その回で学んだこと、意見等)をしてもらい評価する(30%)。 ・小テスト点として、授業で実施する2回分をそれぞれ評価する(20%)。空欄補充問題、論述問題を予定する。	
〔評価の基準及びスケール〕 ・レポート課題、毎回のコメント、小テスト(2回)により評価する。 ・小テストやコメントの主な評価ポイントは、授業内容のまとめ方と論点の指摘である。 ・期末テストのレポート課題の主な評価ポイントは、条文、学説あるいは判例の検討、意見である。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・初回に受講ルールに関する資料を配布するので、欠席の場合は受講前に教務課で受け取り確認すること。 ・労働法は、就職活動あるいは就職に向けて、時には自分の身を守るために必要不可欠な知識となるため、できるだけ多くの法律関係を理解し、学んでもらいたい。 ・単なる条文の暗記ではなく、あるべき法制度を考えながら学ぶ授業である。 ・単に法律関係の理解のみならず、なぜそのような状況になっているのか、制度や背景も踏まえて学ぶ必要がある。 ・教科書や資料を効果的に利用することにより、予習・復習を行ってもらう。 ・授業中、私語及びスマホ等の操作は厳禁である。 ・集中講義であるため、講義内容や受講ルールを理解し、しっかり参加することができる学生に受講してもらいたい。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 労働法とは 内 容: 本授業の評価基準、労働法とは、憲法との関係 教科書・指定図書 教科書 2～13 ページ
第2回	テーマ(何を学ぶか): 労働法体系と労働法のアクター 内 容: 労働法体系、労働法のアクター、労働者性、使用者性 教科書・指定図書 教科書 13～14、25～30 ページ
第3回	テーマ(何を学ぶか): 労働契約の成立と採用内定 内 容: 労働契約、労使の自主的規範、労働契約の成立 教科書・指定図書 教科書 20～24、34～35 ページ

第4回	テーマ(何を学ぶか):採用の自由と試用期間 内 容:採用の自由、労働条件の明示、試用期間 教科書・指定図書 教科書 46～59 ページ
第5回	テーマ(何を学ぶか):試用期間と採用内定の法的位置づけ(主要判例の検討) 内 容:三菱樹脂事件、大日本印刷事件 教科書・指定図書 教科書 46～59 ページ
第6回	テーマ(何を学ぶか):労働契約の基本原則 内 容:労働契約の基本原則、平等原則、男女間の賃金差別の態様 教科書・指定図書 教科書 8～9、132～142 ページ
第7回	テーマ(何を学ぶか):男女平等法理の展開と男女雇用機会均等法の成立 内 容:同一労働同一賃金、男女平等法理、男女雇用機会均等法の成立 教科書・指定図書 教科書 134～149 ページ
第8回	テーマ(何を学ぶか):職場におけるセクハラと就業規則に関する規制 内 容:小テスト(1回目)実施予定、職場におけるセクハラ、就業規則の作成・変更 就業規則による労働契約の内容 教科書・指定図書 教科書 34～37、138～142 ページ
第9回	テーマ(何を学ぶか):就業規則の不利益変更 内 容:就業規則の法的性質、就業規則による労働条件の変更、「合理性」の判断基準 教科書・指定図書 教科書 39～44 ページ
第10回	テーマ(何を学ぶか):就業規則の不利益変更(主要判例の検討) 内 容:大曲市農協事件、第四銀行事件、みちのく銀行事件 教科書・指定図書 教科書 35～44 ページ
第11回	テーマ(何を学ぶか):賃金 内 容:賃金とは、休業手当、最低賃金法 教科書・指定図書 教科書 80～96 ページ
第12回	テーマ(何を学ぶか):労働時間 内 容:小テスト(第2回)実施予定、労働時間とは、柔軟な労働時間制度(変形労働時間制) 教科書・指定図書 教科書 98～99、111～113 ページ
第13回	テーマ(何を学ぶか):裁量労働制と休憩・休日・休暇 内 容:裁量労働制、休憩、休日、年次有給休暇 教科書・指定図書 教科書 98～116、118～124 ページ
第14回	テーマ(何を学ぶか):労働契約の終了 内 容:合意解約・辞職、解雇 教科書・指定図書 教科書 168～176 ページ
第15回	テーマ(何を学ぶか):まとめと振り返り 内 容:整理解雇をめぐる主要判例、全授業のまとめと振り返り 教科書・指定図書 教科書 176～179 ページ
試 験	レポート課題の提出(2題)

【科目名】 非営利組織会計	【単位数】 2 単位	【科目区分】 専門科目・展開科目
【担当者】 池田享誉 Yukitaka Ikeda	【オフィス・アワー】 時間: 最初の授業中に通知 場所: 514 研究室	【授業の方法】 講義
【科目の概要】 平成 10 年の特定非営利活動促進法施行を契機として、非営利組織は広範な社会的役割を担うようになってきた。非営利組織は多種多様で、その範囲は、公益法人、中間法人(協同組合等)、権利能力無き社団・財団(学術団体や町内会等)、さらには冒頭の特定非営利活動法人という組織にまで及んでおり、統一的な会計(会計基準)が完備しているわけではない。 本講義では、まず営利組織(企業)との比較において非営利組織会計に特有の諸性質を明らかにし、その上で、いくつかの具体的な非営利組織の会計を概観していく。 さらに、米国の非営利組織会計について取り上げ、利益獲得を組織目的としない非営利組織が、財務報告において提供すべき情報は如何なる情報かを考えることにより、今後のわが国の非営利会計の発展の方向を考えてもらう。		
【「授業科目群」・他の科目との関連付け）・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 大学カリキュラムにおける会計・財務分野は、主として企業(営利組織)を対象とした科目群から構成されている。しかしながら、社会は、非営利組織などの多様な経済主体によって構成されている。 近年、非営利組織の会計に企業会計的手法を導入することにより、非営利組織活動の効率化を図ろうとする動きが活発になっており、学生の皆さんがこれまでに学んだ企業会計の知識を生かせる環境が整いつつある。企業会計の知識を有する皆さんが、本科目で非営利組織の会計についても学ぶことにより、将来、社会で働く際に非営利組織の会計に携わるといった選択肢が増えることにつながる。		
【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】 利益の獲得という共通の組織目的を有する営利組織(企業)とは異なり、非営利組織の目的や使命は、非営利組織の数だけあるといっても過言ではない。 本講義の目標は、利益獲得を組織目的とする営利組織の会計(企業会計)と多様な組織目的を有する非営利組織の会計との、類似点と相違点を明確にし、非営利組織の会計の特殊性を理解するとともに、非営利組織の会計が担う社会的責任についての理解を深めることである。		
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 学生の皆さんからの意見としては、「説明がわかりやすい」、「いろんな資料を添付してくれるので理解が深まる」等の肯定的意見を多くもらえ、とてもうれしく思っています。 改善すべき点としては、「一時間ずっと話を聞いているだけのことがあり、少し飽きる」等の意見をもらいました。この科目は私が担当するほかの簿記科目と異なり、覚えてできるようにすることではなく、学生自身に考えてもらうことが目的なので、さまざまな考え方とその根拠を伝え、皆さん自身に考えてもらっています。ですので、ただ話を聞いているだけではなく、ぜひ考えてください。 今年度も、学生の皆さんのためになる内容を心がけていきたいと思っています。		

〔教科書〕 なし	
〔指定図書〕 『体系 現代会計学〔第9巻〕 政府と非営利組織の会計』中央経済社 池田享誉『非営利組織会計概念形成論』森山書店	
〔参考書〕 授業の中で適宜紹介する。	
〔前提科目〕 会計学基礎論、財務会計論、管理会計論	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末テストにより評価する。	
〔評価の基準及びスケール〕 F<50点 50点≤ D<60点 60点≤ C<70点 70点≤ B<80点 80点≤ A≤ 100点	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本科目は、理論科目なので簿記の計算は扱わないが、理論を理解するために簿記の知識は必要となる。したがって、履修学生への要望としては、まず、「会計学基礎論」で学んだ簿記の計算構造を十分理解していることが求められる。 さらに、営利組織(企業)会計との対比により説明することが多いので、「財務会計論」および「管理会計論」の講義で学んだ企業会計理論を理解していることも履修学生には求められる。 教員としてこの授業に取り組む姿勢としては、企業会計とは異なる非営利組織会計の特殊性を理解してもらうために、できるだけ具体的な事例を用いて説明する。そのうえで、現行基準の理解にとどまらず、問題点についても考える力を身につけてもらいたい。本講義では、企業会計基準および理論を理解していることを前提として講義を進めるので、企業会計基準および理論の理解に不安のあるものはオフィスアワーを利用して相談に来てください。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ：イントロダクション； 内 容：非営利組織とは何か
第2回	テーマ：非営利組織の特徴 内 容：営利組織との類似点と相違点①

第3回	テーマ：非営利組織の特徴 内 容：営利組織との類似点と相違点⑥
第4回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内 容：営利組織の会計との類似点と相違点⑥
第5回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内 容：営利組織の会計との類似点と相違点⑥
第6回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：昭和60年公益法人会計基準
第7回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成10年NPO法人会計
第8回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成12年社会福祉法人会計基準
第9回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成13年宗教法人会計
第10回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成16年公益法人会計基準
第11回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成20年公益法人会計基準
第12回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容：平成22年NPO法人会計基準
第13回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：米国における非営利組織会計
第14回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：国立大学法人会計基準
第15回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：国立大学法人会計基準
定期試験	筆記試験

[科目名] 職業指導		[単位数] 4 単位	[科目区分] 教職科目(教科必修) 経営学科(選択)
[担当者] 三上 雅也	[オフィス・アワー] 時間:初回の講義で連絡する 場所:同上		[授業の方法] 講義
[科目の概要] 本科目は、高等学校商業科の教員免許状取得の必須科目であることを踏まえながら、個人が職業を選択する課程において、学校で行われる職業指導(近年は「進路指導」「キャリア教育」として取り扱われることが多い。)がどのような意義をもち、どのように機能しているのか。また、実際の場面において、どのような指導が行われているのかなど、教育免許状の対象である高等学校の教育段階に限定しないで、職業指導・進路指導・キャリア教育についての基本的な理論・考え方について講義を進めていく。			
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 教職の専門科目である「進路指導の理論と方法」と内容的に重複する部分があるが、教科としての職業指導の経緯などを理解することになるので、結果として進路指導やキャリア・ガイダンス等についての理論と方法の習得につながる。			
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 本科目では、職業指導・進路指導をどう捉え、どう理解するかを第一のねらいにしている。したがって、今日のキャリア教育(論)の経緯などにも触れながら、講義全体を通じて、望ましい勤労観・職業観の確立に努める。なお、学士力や社会人の基礎力にも通ずる自己のライフ・デザインの確立と自他との交流(リレーション)する力を身につけるため、講義形式のほか意見を求める双方向の授業やグループ・ワーク等のエクササイズも取り入れた授業展開をする。			
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] 経営学科の専門科目ではあるが、商業の免許状を取得する際の必須科目である。教職課程の教科に関する科目としてはボリュームのある4単位(30時間)であるにもかかわらず、教職課程履修者以外の受講した学生も多いので、エクササイズや発表なども積極的に導入した授業展開を予定している。また、授業回数が多いので、内容の節目で「まとめと確認」を行う。			
[教科書] 文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」(文部科学省の HP で確認できる)			
[指定図書] 特に指定しない			
[参考書] 佐藤 史人 他「新時代のキャリア教育と職業指導」 法律文化社 寺田 盛紀「日本の職業教育」 晃洋書房			
[前提科目] 教職課程の履修科目である「進路指導の理論と方法」など。			
[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等) 講義時のワークシート(簡易なレポート含む)作成・提出。 評価は、ワークシートの提出状況、記載内容及び試験(レポート)の結果を踏まえて行う。 欠席が全講義回数の 1/3 を超える場合は単位認定の対象外とする。			
[評価の基準及びスケール] A:100～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59～50 点 F: 49～ 0 点			

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義はパワーポイント等で適宜資料を提示する。講義をしっかり聞き、ワークシートを作成し提出すること。 通常の講義形式の授業形態のほかにグループワークなども実施する予定であるので、授業に主体的に参画するようにする。欠席する場合は、連絡・報告をすること。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:科目「職業指導」の概要、講義スケジュール、「評価」と基準等について 教科書・指定図書 スライド投影
第2回	テーマ(何を学ぶか):職業の語義と種類と産業構造の変化と職業1 内 容:職業の語義と職業の種類について 戦後の混乱から高度成長時代について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第3回	テーマ(何を学ぶか):産業構造の変化と職業2 内 容:安定成長時代からIoTとAIの時代について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第4回	テーマ(何を学ぶか):組織社会の特徴について1 内 容:日本社会の特徴を組織から考える 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第5回	テーマ(何を学ぶか):組織社会の特徴について2 内 容:日本社会の特徴を組織から考える 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第6回	テーマ(何を学ぶか):キャリア開発と職業指導 内 容:キャリア開発と職業指導について考える 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第7回	テーマ(何を学ぶか):職業指導について 内 容:職業指導、進路指導及びキャリア教育について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第8回	テーマ(何を学ぶか):職業指導の指導領域 内 容:職業指導が行なわれている場所について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第9回	テーマ(何を学ぶか):職業相談の役割 内 容:職業相談と進路相談について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第10回	テーマ(何を学ぶか):職業適性とその分類 内 容:職業適性について知る 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート

第 11 回	テーマ(何を学ぶか):職業適性に関する検査 内 容:職業適性検査の具体について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):学校におけるキャリア開発と支援 内 容:義務教育学校におけるキャリア開発と支援 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア開発と支援 内 容:商業系学科におけるキャリア開発と支援 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):雇用に関する権利と義務 内 容:雇用者と被雇用者のトラブルについて 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):世界のキャリア開発と支援 1 内 容:海外の地域の特徴と日本との違い 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):世界のキャリア開発と支援 2 内 容:海外の地域の特徴と日本との違い 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性和意義 1 内 容:若者の「社会的・職業的自立」 「学校から社会・職業への移行」を巡る経緯と現状 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性和意義 2 内 容:キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性 発達段階に応じた体系的なキャリア教育の充実方策 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性和意義 3 内 容:高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実方策 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):「キャリア発達」 内 容:ライフ・キャリアの虹について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育と職業教育と進路指導 内 容:職業教育を通じたキャリア教育の重要性 進路指導の定義と諸活動 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進 1 内 容:設置形態、学科の特質に応じたキャリア教育 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 23 回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進 2 内 容:校内組織の整備の推進 計画の作成について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート

第24回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進 3 内 容:連携の推進 キャリア教育の評価 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第25回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育実践 内 容:高等学校におけるキャリア発達 系統的なキャリア教育の取組 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第26回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 1 内 容:商業高校における体系的なキャリア教育について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第27回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 2 内 容:将来のスペシャリストの育成 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第28回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 3 内 容:商業教育について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第29回	テーマ(何を学ぶか):本県におけるキャリア教育 1 内 容: キャリア教育の指針(総論編) 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第30回	テーマ(何を学ぶか):本県におけるキャリア教育 2 内 容: キャリア・パスポート 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
試 験	レポート

〔科目名〕 経営倫理学	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 選択必修
〔担当者〕 藤沼 司 FUJINUMA, Tsukasa	〔オフィス・アワー〕 時間: オフィス・アワーは授業の開始時に提示 場所: 603研究室	〔授業の方法〕 講 義
〔科目の概要〕 20 世紀以降の現代社会が「組織社会」と呼ばれるようになって久しい。その組織社会たる現代社会を支える企業や行政機関、その他の組織体が引き起こす事件・事故は、私たちが生きる現代社会を根底から揺るがすことにもなりかねません。 組織体は、様々な環境との相互作用の中で活動しています。経営倫理学は、組織体を取り巻く多様な環境(人間環境、社会環境、自然環境)との関わりを問ひ、またそのことを踏まえてどのように組織体をマネジメントするかを問う学問であると言えます。その意味で本講義では、みなさんとともに「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問いたいと思います。そのことが現代社会や組織を、ひいてはくいま・ここに生きる私たちのあり方・生き方を、問うことにもなります。		
〔授業科目群・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 組織体は、様々な環境との相互作用の中で活動しています。経営倫理学は、組織体と多様な環境(人間環境、社会環境、自然環境)との関わりを問う学問であると言えます。その意味で言えば、教養科目群を学ぶことを通じて、多様な環境(人間環境、社会環境、自然環境)についての理解を深めることが期待されます。 また基本的に、「多様な環境の中での組織体のマネジメントのあり方」を問うという意味で、マネジメント論や組織論、経営戦略論、環境経営論などと密接な関連を有しています。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 本講義の到達目標は、みなさん自身が「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問うための土台づくりです。 そのための中間目標として、本講義では「組織体はなぜ不祥事を起こすのか」という問いに対する考察を重視したいと思います。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 当該科目を担当するのは久しぶりで、授業評価(授業アンケート)のフィードバックがありません。したがって回答を控えます。		
〔教科書〕 特になし		
〔指定図書〕 必要ときに提示		
〔参考書〕 岩田 浩『経営倫理とプラグマティズム― ジョン・デューイの思想に依拠した序説的考察―』文眞堂。 遠田雄志『組織を変える“常識” ― 適応モデルで診断する―』中公新書。 小笠原英司・藤沼司編著『原子力発電企業と事業経営― 東日本大震災と福島原発事故から学ぶ―』文眞堂。 奥村 宏『会社はなぜ事件を繰り返すのか― 検証・戦後会社史―』NTT出版。 亀田達也『モラルの起源― 実験社会科学からの問い―』岩波新書。 経営学史学会編『経営学史事典』文眞堂。 経営学史学会監修『経営学史叢書シリーズ』(全 14 巻) 文眞堂。 経営学史学会監修『経営学史叢書(第Ⅱ期)シリーズ』(全 7 巻) 文眞堂。 柴田 明『秩序と企業倫理― ドイツ・オルトスング倫理学 Ordnungsethik の学説研究―』文眞堂。 杉山尚子『行動分析学入門― ヒトの行動が思いがけない理由―』集英社新書。 武田晴人『事件から読みとく日本企業史』有斐閣。 谷口照三『組織倫理論の可能性― 経営の解釈・実践枠組み探求への新たなる地平―』大学教育出版。 G.テッド『サイロ・エフェクト― 高度専門化社会の罠―』文藝春秋。 庭本佳和『バーナード経営学の展開』文眞堂。 樋口晴彦『組織行動の「まずい!!」学― どうして失敗が繰り返されるのか―』祥伝社新書。		

樋口晴彦『「まずい!!」学—組織はこうしてウソをつく—』祥伝社新書。
 M・フォレット『創造的経験』文眞堂。
 間嶋 崇『組織不祥事—組織文化論による分析—』文眞堂。
 宮坂純一『道徳的主体としての現代企業—なぜに、企業不祥事が繰り返されるのか—』晃洋書房。
 S.B.ローゼンソール＝R.A.ブックホルツ『経営倫理学の新構想』文眞堂。
 K・ワイク＝K・サトクリフ『想定外のマネジメント—高信頼性組織とは何か—（第3版）』文眞堂。

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断します。

- ・ 期末試験
- ・ 講義内レポート
- ・ 講義内発言点
- ・ グループ・ワーク
- * グレードポイントは学生便覧通り。

〔評価の基準及びスケール〕

- ・ 講義内レポートを不定期に実施することがあります。
- ・ なお、配点などの詳細については、授業の初回に提示します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講義では、「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問うていきたいと思います。

その手がかりとして本講義では、「組織体はなぜ不祥事を起こすのか」という問いに対する考察を重視したいと思います。そのために、受講生のみなさんには、「組織体の不祥事」をグループ単位で具体的に調べてもらい、講義内で発表してもらうことを考えています。そのことを通じて、組織に対するおおよび組織における人間行動に対する理解を深めることを目指したいと思います。こうした問題に関心のある学生の積極的な「参加」を希望します。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 講義の進め方 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第2回	テーマ(何を学ぶか):経営倫理学の歴史的背景 内 容:経営倫理学を生み出した背景 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第3回	テーマ(何を学ぶか):応用倫理学としての経営倫理学 ① 内 容:徳理論・義務論 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第4回	テーマ(何を学ぶか):応用倫理学としての経営倫理学 ② 内 容:功利主義・正義論 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第5回	テーマ(何を学ぶか):応用倫理学としての経営倫理学 ③ 内 容:共同体主義など 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布

第6回	テーマ(何を学ぶか):「応用倫理学としての経営倫理学」の再考 内 容:これまでの振り返り／事例紹介 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第7回	テーマ(何を学ぶか):「応用倫理学としての経営倫理学」の再考 内 容:道徳的多元主義の検討 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第8回	テーマ(何を学ぶか):組織体の存立構造 ① 内 容:システム論からの接近 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第9回	テーマ(何を学ぶか):組織体の存立構造 ② 内 容:「モラル主体」としての組織体観 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第10回	テーマ(何を学ぶか):道徳的制度としての組織 内 容:組織体における道徳準則間のコンフリクトとその克服のために 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第11回	テーマ(何を学ぶか):組織体を取り巻く多様な環境 ① 内 容:人間環境・社会環境・自然環境との関連で 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第12回	テーマ(何を学ぶか):組織体を取り巻く多様な環境 ② 内 容:人間環境・社会環境・自然環境との関連で 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第13回	テーマ(何を学ぶか):具体的な事例を挙げて ① 内 容:事例の紹介と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第14回	テーマ(何を学ぶか):具体的な事例を挙げて ② 内 容:事例の紹介と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第15回	テーマ(何を学ぶか):具体的な事例を挙げて ③ 内 容:事例の紹介と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
試 験	

〔科目名〕 開発経済学—貧困(束縛)からの自由を求めて —映画をみて“貧しさ”について共に考えてみませんか—	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 大 場 裕 之 Oba Hiroyuki hooba@reitaku-u.ac.jp	〔オフィス・アワー〕 時間:集中講義中、いつでもOK 場所:教室、教員控室	〔授業の方法〕 講義・演習
〔科目の概要〕 - この科目では、開発経済学(近代経済学)が前提とする人間観(合理的経済人)・生き方を問い直し、「共創」の視点から、<u>新たな判断軸(共創マインド)を身に着けること</u>を狙いとする。 - この目的のために、ビデオ教材(DVD 映画など)を用いて、日本や世界を「共創空間」で共に旅をしながら、旅先の人々を見ながら、クエスチョンを探し、共創空間開発技法(略称CSD)によって、その人たちと向き合い、彼らを「鏡」として日本人や自分の生き方を問い直す。 - 旅先としては、日本(青森県)や、成長著しい南アジア(インド・ブータン)とする。「自由」、「豊かさ」、「幸福」、「健康」、「飢え渴き」などをキーワードとして、貧しき経済人の生き方を具体的に考える。 - この科目で実践する「共創」の旅を通じて、“経済人(の合理性)”の魅力と落とし穴に気づき、共創スキルを身に着け、“共創人”として、日々の生き方の質、人生の質を高めるヒントを掴むことが期待されている。		
〔授業科目群〕・他の科目との関連付け〕・〔学んだことは、何に結びつくか〕 ・この科目は、経済・経営学や心理学、開発論、モチベーション論、コミュニケーション論、意思決定論、ライフスタイル論などに関連しており、一つの専門分野だけでは、解決できない問題を取り上げる。 ・学んだことは何に結びつくのか？ ① 「共創マインド」を習得することによって、日々の生き方・生活の質を引き上げ、人生の様々な局面における価値判断や意思決定をする時に役に立つ。 ② 「共創マインド」を習得した人財として、将来のあらゆる職業(国際機関、国、地方団体、民間企業、NPO機関など)に結びつき、経済開発だけではなく、商品開発、人材開発、地域開発、社会開発、モチベーション開発などのプロフェッショナルとして、また問題発見・問題解決能力を有する共創エキスパートとして活躍できる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 4つのポイント - 経済合理性の視点(1+1=2)を吟味し、「共創的視点」を持つために、CSD 技法を実践すること。 「共創空間」でキャッチボールしながら、具体的な問いを発見し、1+1=2 だけではない答えを探究すること。 - 貧しき経済人の考え方・感じ方を CSD 技法によって、具体的かつ客観的に「見える化」し、どこに問題があるのか、共に発見し、その原因と解決策を明らかにするスキル(価値判断力、問題発見・解決力、コミュニケーション力などコア・ライフ・スキル)を習得すること。具体的には、聴く耳を持てるようになること、自己表現力を身につけることができること、他者との協働による“気づき”が可能となること、プレゼンテーション能力およびリポーティング能力を磨くこと。 「共創空間」で共有化された問題を考えることにより、学ぶことの意味や意義が明確となり、自分の生き方と向き合うことによって、生きる意欲が生み出され、自らの日々の意思決定や将来設計に役立つ。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善工夫 2022/6(一部19年と20年)〕 (1) 授業評価に関する全体的な印象 授業中の真剣な態度とアンケートの設問(全11項目)に対する前向きな回答とがほぼ一致していたので、嬉しい限りです。より達成感のある授業を目指すために、以下の5点について、確認し、より明確化し、受講生とともに、共有化したいと思います。 ① 問1(授業内容はシラバスと合っているか)について：シラバスはあくまでもガイドライン(昨年度の実績ベース)であり、授業は、キャッチボールしながら学生たちと共に創っていくスタイルなので、シラバス自体が毎年カイゼンされることを了解願いたい。 ② 問2(成績評価の基準の明確化)について：最初の授業で明確に基準を提示するので、最初の授業を逃さないように。基本的には、<u>学習態度と学習成果を評価</u>する。具体的には、授業で実施する「共創空間」での貢献度(活動成果)と共創レポートによって評価する。 ③ 問3(質の高い授業内容)について：質の高さは、新しい知見が得られる達成度の高い授業を目指している。あるテーマについての固定観念から解放され多様な視点を身に着けること、また、ものごとの本質を捉える能力を磨くことに主眼を置いている(後述の学生から提起された改善の提案や要望の項目を参考)。 ④ 問9(学生の質問・相談への配慮)について：集中講義という性格から、短期間なので、授業中もしくは授業開始前や終了後に相談に乗ります。 ⑤ 問10(自習時間)について：集中講義なので、<u>講義を受講するにあたって予習する課題(事前学習)の時間と講義終了後に実施するレポート作成の時間(見込み)を「自習時間」と見做してください。</u> (この授業を通じて、開発の新たな意味の発見や、開発経済学の前提となる、いわゆる“合理的経済人”を問い直すことの大切さを参加者全員で体験・共有化することは、大学生活や就職だけではなく、必ず一生の宝となるはずです。) (2) 自由記載欄の学生の意見とそれに対するコメント(⇒の部分) 〔優れた点〕 - 学生の意見を尊重し、学生と共に授業を作り上げていくスタイルが他の授業にないオリジナルかつ面白い授業であると思います。考えることが苦手な私でも集中して興味深く取り込みました。 - 常に面白く、ジョークを交えながら、真面目に意見交換のできる質の高い授業を受けることができ、幸せでした。		

・ゼミで行っているディスカッションとは違う、ホワイトボードを使った共創マトリックスは、とても内容が濃く、新鮮でした。⇒「共創空間」を創るプロセスの中で、価値観の異なる他者と向き合うこと、そして自分と向き合うことができる。1人1人の自由意思が尊重され、自由を味わうことができる。新たな価値創造を体験できる。 ・共創マトリックスを使って、様々な意見を聴きながら、いろいろな見方ができる。 ・共創マトリックスを使って様々な設問（問いの発見）を考えていくことが非常に楽しかったし、勉強になったこと。問いを見つけたり、考え方を知ったり、自分にとって非常に貴重で有意義な時間を得ることができた。15回ではなく、30回の講義でもっと時間をかけて勉強したかったです。 ・（ビデオ教材の）映像を見てよりよく知ることができた。自分の価値観が変わった。 ・コミュニケーションを大事にしている点。楽しい！ ・なぜこの授業が集中講義なのかというくらい、みんなに受けて欲しい授業だなと感じました。 ・ホワイトボードなどを用いて、共創空間を考察するため、自分が教員になったつもりで積極的に参加できること。 （問題点） ・学生数が少ないと意見の数も少ないので、もう少し人数が欲しかった。⇒是非、参加してみてください！！ （改善の提案や要望） ・（特になし） 以上 （学生に一言アドバイス） 1. アンケート調査の質問項目の9（オフィスアワー等）については、集中講義という短期間なので、講義時間や休憩時間で質問や相談に応じられるように工夫しているので、評価するときはそこを考慮してください。 2. また、質問項目の10（過当たりの自習時間）については、成果レポート（「共創レポート」という名称）を作成する時間も織り込んで自己評価してください。 3. 質問項目の1のシラバスと内容が合っているかという問いについては、これは教員が一方的にボールを投げるという前提となっている。しかし、本講義では、シラバス体も、「学生と共に創る」という点を評価しているので、どれだけ教員と学生間でキャッチボールされた内容となるのかを評価してみてください。	【教科書】（事前に配布予定） 大場裕之＋ライフスタイル研究会[2013]『「共創空間」で地球を旅しよう～ライフスタイルの再発見～』（Working Paper No. 56）麗澤大学経済社会総合研究センター。
【指定図書】 ・渡辺利夫[2001]『開発経済学入門』東洋経済新報社。 ・大場裕之＋「共創空間」開発プロジェクトチーム[2015]『共創空間開発学のすすめ―知のイノベーションの新技术法』麗澤大学出版会。 ・大場裕之＋ライフスタイル研究会[2015]『「共創空間」を開発することの学問的意義―「共創空間開発学」の構築を目指して―』（Working Paper No. 68）麗澤大学経済社会総合研究センター。 ・大場裕之＋大場ゼミナール[2007]『学問力のすすめ―「活きた」学問を楽しむために』麗澤大学出版会。 ・田中拓男[2006]『開発論―こころの知性』中央大学出版部。 ・我妻和男編著[2005]『光の国・インド再発見』麗澤大学出版会。	【参考書】 授業時に必要に応じ提示
【前提科目】 なし	
【学修の課題、評価の方法】（テスト、レポート等） ・コースプラン、内容などについての詳細は、授業の開始時に担当の教員から指示される。 ・事前学習として、配布されたテキストを読んで、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどをレポートにすることを課す。 ・授業中にディスカッションのために必要となる基本的知識を習得するためのクイズ形式の課題を毎回行う。 ・共創マトリックス手法を活用した全員参加型の授業を行うため、そのための予習・復習が必要となる。 ・ディスカッションによって得られた成果やさらなる問題・疑問について、発見メモを作成すること。 ・この講義を通じて最も関心を持ったことや役に立ったことについて発表するチャンスを用意する。 ・この講義の最後には、5日間を振り返る総括討論を予定している。 ・期末試験は実施せず、達成度（学習成果）を評価する「共創」レポートに置き換える。	
【評価の基準及びスケール】 成績評価は、「共創空間」の体験に基づく、「共創＝スマイル」評価に基づいて実施する。「共創」評価は、達成度と社会貢献度という2つの基準によって構成される。評価基準のウェイト付けは、各々50%とする。 その詳細は以下の通り。 1. 達成度（60%） 1) テキスト学習メモ（A4サイズ：1～2枚程度） 2) 出席状況 3) 発見メモの提出（毎日の授業終了時、5回） 4) 「共創」レポート（「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの） 提出期限：2024年01月19日（予定） 2. 社会貢献度（40%） 「社会」とはこの講義に参加した受講者への貢献を指す。 1) 「共創マトリックス（共有化ツール）」（マグネット使用）への参加 2) ディスカッション（ボールによるキャッチボール）への参加 3) プレゼン（事前課題プレゼンで始まり、振り返りプレゼンで終わる）	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 ・教員としてこの授業に取り組む姿勢 この科目は、開発経済学が前提としている人間モデルを問う新しい試みであるので、現行の学問の専門知識にのめりこまずに、問題を発見すること、関心を持つこと、高めることに主眼を置いている。また、「ラクする楽しみ」ではなく、「共に創造する楽しみ」を共有すること念頭において取り組む。さらに、「共創空間」というスペースの中をタイムマシンの飛行機(?)に乗って、現在の地球だけではなく、過去と近未来の地球を飛び回ることによって、学生諸君一人一人の「よい(良い・善い)生活・人生」探しのためのヒントを提供したいと思っている。 ・学生への要望 対話形式、キャッチボール(ドッチボールではない)スタイルの講義なので、積極的な学生が望まれる。講義の基本方針に基づき、自由に意見を言える場なので、その主旨を十分理解し、各自が責任をもって参加すること。なお、「共創」レポートの書き方については、授業時に説明する。ただ単に知識を鵜呑みにせず、絶えず問うことを大切にほしい。また、楽(ラク)する楽しみではなく、「脳ミソに汗をかく」楽しみ方を是非発見してほしい。 【実務経歴】 該当なし	

授業スケジュール(受講生のニーズに基づいて一部変更する可能性あり)	
DAY 1 (12/20) 旅立ち スマイル 1～3 講 「共創空間」 の中で日本 からインド へ旅立つ 束縛からの 自由を求め る希望の旅	テーマ1: 貧しき経済人を問題とする旅— 開発経済学が前提とする「経済合理的人間」の貧しさとは？ 内 容: 経済合理的(損得で動く)人間の「貧しさ」を吟味する共創への旅による！ ◎ 学問力のすすめ 気づいたこと、おやっと思ったこと、「問い」を発見する意欲が欠乏している？ この意欲の欠乏こそが、「貧しさ」の正体。従って、意欲だけではなく、様々な欠乏を探す旅となる。 わたしたちは、経済人ですか(自分を経済人と思ったときある)？ 好き・嫌い？ 経済人としての貧しさ(欠乏): 気づいている、それとも気づいていない？ ⇒ 貧しき経済人とは、「自分は正しい」として、他者軸の欠乏した自己中心的人間。 旅立ち: 関心のある経済人？ 音楽好きな経済人?? この経済人の「貧しさ」とは何??? ⇒ 「音楽」が共通ボール。好きな音楽・嫌いな音楽＝よい音楽・嫌いな音楽? 「1+1=2?」の発見 ☆公立大学でのキャンパスライフ、楽しんでいるか＝ラクしているか? 「ラクして楽しむ」合理的な生き方がなぜダメなのか？ テーマ2: 貧しき経済人がたどる人類の道とは？ 内 容: 果たして「経済人」は束縛(貧困)の罠から脱出できるのだろうか？ 経済人から「共創人」モデルへシフトし、「共創マインド」を持つことが脱出の糸口。 テーマ3: インド映画『きっと、うまくいく』(前半 85 分)を観て、貧しき経済人を探索する旅: 内 容: インド映画に登場する若い「経済人」の素顔を知り、関心を持つ＝「問い」を発見すること。 ＜教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による＞
DAY 2 (12/21) 花 4～6 講 インド: 自由から富 を求める飛 躍の旅	テーマ4: インド映画『きっと、うまくいく』(前半)を観て、自由と富を求める、貧しき経済人を考える旅: 内 容: 映画に登場する人物: どのような自由を求めているのか？ ラクする自由には「落とし穴」がある？ <楽しむ自由にも「落とし穴」がある？> ・自分たちに関わる重要な問い(＝大学教育)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 大学(教育)とは点の取り方を教えるところ？ 問い2: 大学(教育)は、人生の競争に勝つためのものか？ 大学教育に対する見方において、どの自由を選ぶか？ 自由を得ると、人は富を求めるのか？ 経済的富: 「おカネがすべて」なのか？ 夢を与える仕事とどう関連するのか？ — インド経済人を「鏡」として考える— 「人生は競争」なのか (欠乏ゆえに) どのような自由を求めているのか？ 束縛からの自由、そして、富への自由。 カネがあれば何でも(買うことが)できる？ 過去の時間と現在・未来の時間: 今の時間も？ いのちや愛も？ テーマ5: インド映画『きっと、うまくいく』(後半 85 分)を観て: 富を求める経済人を観察する 内 容: 金持ちになりたい？ ビジネス(経済的富の追求)は何のためなのか？ インドからの答えとは？ カネを稼ぐのが目的ではなく、稼いだカネを社会に還元すること(与える) テーマ6: インド映画『きっと、うまくいく』を振りかえって: 富を求める経済人を吟味。 内 容: インド映画『きっと、うまくいく』を観て、自分たちに関わる問い(成功者とは)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 人生の成功者は登場人物の中にいる？ 問い2: 成功者とは金持ちなのか <エクセレント(優秀)な人生？> ＜教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による＞
DAY 3 (12/22) 自転車 7～9 講 インドから ブータン へ: 富から自己 満足を求め る快楽の旅 無関心とな る暗闇の旅	テーマ7: インドからブータンへ: 幸福と自己満足を求める経済人を考える旅: “足るを知る” 人間へ 内 容: ビデオ教材によって、幸福の国ブータンの経済人の素顔を知る 嵐、幸福の国ブータン、あるいはブータン幸福度調査を観て、共創する。 義務を守れば幸せになれるのか、「幸せ」は一時的なのか (便利になれば、幸せになれるのか) (参考) 義務: タバコ禁止(義務)、伝統的民族服の着用の義務、森林保護の義務、建築デザインの規制(義務)など。仏教的幸福の方程式＝財/欲望 ホント？ ブータンの幸福度＝日本人の幸福度(個人主義的)？ ブータンは、自分+他者、現世+来世 御手洗瑞子(みたらい・たまこ)、[2012]『ブータン、これっていいのだ』新潮社。 ・ブータンの幸福観を受け入れられるのか、 テーマ8: ブータン幸福度調査に関するビデオをもとにキャッチボール 内 容: ブータンの経済人の幸福観を知ること。 心豊かであれば幸せとなるかもしれないが……今は幸せですか？ 「心の豊かさ」を求めていますか？ テーマ9: ブータンの経済人の幸福: 理想と現実とは同じなのか？ 内 容: ブータン幸福度調査の結果をもとに、共創する。 ＜教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による＞
DAY 4 (12/23) アダムとエ バの誕生 10～12 講 ブータン:	テーマ10: ブータンの経済人から: 「幸せはどこに？」 満足の中に？ それとも愛の中に？ 内 容: 「満足」する意味を考え、幸せとなるか否かという判断基準を明確にする。 (参考) 「満足」する＝精神的に満たされ、物質的に足りていること(仮説)。 テーマ11: 満足する生き方と「足るを知る」生き方: どちらの道を選ぶか 内 容: 満足する生き方の対極にある「足るを知る」生き方を明らかにする。 「足るを知る」生き方を実践すれば、愛欲から解放される？ 愛と愛欲の違い。 自分を犠牲にしても愛したい「何か」を持っていますか？ 自己愛の対極にある愛。 例えば、鶴のために自分の快適さ(欲望)を犠牲にしてもよいと考えるブータン人のように。 テーマ12: 「自己満足すれば、幸福になれるのか？」 自己満足すると、無関心となるのはなぜ？ ＜教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による＞
DAY 5 (12/24) 帰還 川はなぜリ ッチ？ 13～15 講 インド・ブ ータンから の帰国 「心の貧し さ」(束縛)と 自我からの 解放の旅	テーマ13: インド・ブータンからの帰還: 貧しき経済人が人生に求めてきたもの: 自由・富・満足する生き方: その行きつくところ とは、無関心と束縛。では、貧しき経済人は、何を求めて生きればよいのだろうか？ 「病者の祈り」にみる祝福された貧しき経済人にそのヒントがあるのでは。 内 容: 経済人は何を求めて生きているのか？ 経済人は、ほんとうの自由、ほんとうの豊かさに出会えるのだろうか？ 科学的アプローチと宗教的アプローチを問う: 真理はどこにあるのか？ 真理は体験して知るものでは？ テーマ14: 「カイゼン」と「ジュガード」を実践する(経済人ではなく)共創人を目指して 内 容: 心貧しき者経済人にとってのよき知らせ。共創空間に秘められた宝を明らかにし、共有化する。 テーマ15: 貧しき経済人をめぐる共創の旅の総括: 内 容: 映画でみる急成長するインド・幸福の国ブータンから、どんなメッセージを得たのか？ 「共創」の視点から、その人間観、特に貧しき経済人の生き方(way of life, lifestyle)を問題とし、新たな判断軸(共創マインド): 身についたと思いますか？ 自分の生き方にインパクトがあったのか？ 共創の旅からのプレゼント: 1 + 1 = 9 (の宝) ・「貧しき経済人をめぐる共創レポート」作成にあたっての確認。 ＜教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による＞

試験ではなく、「共創」レポート(「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの) 提出期限: **2024年1月19日** (予定)

【科目名】 金融機関論	【単位数】 2 単位	【科目区分】 専門科目 展開科目
【担当者】 國方 明 Kunikata, Akira	【オフィス・アワー】 時間: 第 1 回の授業で連絡します。 場所: 525 号室	【授業の方法】 講義
【科目の概要】 本科目では、金融機関とその行動を、主にミクロ経済学の理論を使って理解します。ただし時間が限られているので、金融機関のうち主に銀行を取り上げます。本科目でいう「銀行」は、預金取扱金融機関全般を指します。つまり、本科目の「銀行」は、〇〇 銀行という名称で営業する株式会社だけでなく、信用金庫や信用組合なども含みます。 本科目は以下の 3 つのパーツに分かれます： まずパート 1 では、金融機関の制度的・歴史的側面を紹介します。たとえば日本では金融機関が銀行業、証券業や保険業などの業態に分かれ、政府などが相互参入を厳しく規制してきました。また銀行業に限定すると、株式会社形態と協同組織形態の 2 つに大きく分かれ、前者は更に細かく都市銀行、地方銀行、第二地方銀行と信託銀行などに分かれます。また制度を理解するためには、その制度が形成される過程つまり歴史的背景を学ぶことが有益です。 次にパート 2 では、ミクロ経済学の理論を応用して、銀行の存在意義、銀行行動、複数銀行が構成するシステムを議論します。ミクロ経済学の発展に伴い、銀行にかかわる経済理論の主流が、時代ごとによって変わっています。具体的には、(a) 1970 年代までは生産者理論の応用が、(b) 1980 年代以降では「情報の経済学」や「不完備契約の理論」の応用が、それぞれ主流になってきました。そして(b)は、個別銀行に対する公的介入や銀行システムに対する公的介入の議論につながっています。これら議論を金融経済学Ⅱで取り上げています。 最後にパート 3 で、銀行のリスク管理を教えます。		
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 2 つの関連を指摘します。 まず、本科目の内容は、金融経済学Ⅰと金融経済学Ⅱの金融機関に関する部分を、より高度にしたものになっています。 次にファイナンス理論で、リスクに対する報酬と、派生商品というリスク管理手法を学びました。本科目パート 3 で、これら概念を金融機関に応用します。 【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 金融機関の役割やその行動を、これまで学んできた経済学の知識を使って理解できるようになると期待します。		
【科目の到達目標(最終目標・中間目標)】 最終目標： ミクロ経済学の理論を使って、金融機関の役割やその行動を理解できるようになること。研究者向けの文献(たとえば山沖義和・茶野 努 編著『日本版ビッグバン以後の金融機関経営』勁草書房、2019 年や植杉威一郎『中小企業金融の経済学』日経 BP、2022 年)を適切に理解できるようになれば、この目標を達成できたと言えるでしょう。 中間目標： ● 基礎的な専門用語の意味を、正しく理解できるようになること。 ● ミクロ経済学の理論を金融機関へ応用するために、どのような工夫が必要なのかを理解すること。		
【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 2022 年度の授業評価アンケートでは、復習問題を増やしてほしいとの要望をいただきました。そこで復習問題を増やす予定です。		
【教科書】 本科目では教科書を使用せず、ハンドアウト(俗に言うプリント)を使って講義を進めます。下記参考書に基づいてハンドアウトを作成しています。		
【指定図書】 該当無し。		
【参考書】 参考書 1: 内田浩史『金融』有斐閣、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書 2: 茶野 努・安田行宏編著『基礎から理解する ERM』中央経済社、2020 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書 3: 福田慎一『金融論【新版】』有斐閣、2020 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み) 参考書 4: 村瀬英彰『シリーズ新エコノミクス 金融論 第 2 版』日本評論社、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)		

蔵済み)	
【前提科目】 ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、ゲーム論、金融経済学Ⅰ、金融経済学Ⅱおよびファイナンス理論 上記 6 科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。ただし該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 次の(ア)および(イ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。 (ア) 授業内小テスト 1 回。択一式です。 (イ) 期末試験。択一式と記述式の併用です。	
【評価の基準及びスケール】 【学修の課題、評価の方法】に挙げた(ア)と(イ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。 A:80%以上。B:70%以上 80%未満。C:60%以上 70%未満。D:50%以上 60%未満。F:50%未満。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 ● 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明を行います。できる限り出席してください。 ● 金融経済学Ⅰ、金融経済学Ⅱやファイナンス理論などに基づく、かなり高度な理論を本科目で取り上げます。これら科目の一部または全部を履修しなかった人、あるいはこれら科目の一部または全部で D 以下の評価を得た人は相当苦勞するでしょう。該当する人は、履修するか否かを十分考えてください。 ● 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、國方が受け付けます。 ● 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。	
【実務経歴】 公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、ミクロ経済学の理論を使って、銀行など金融機関の役割やその行動を理解する授業です。	
授業スケジュール (履修者の理解度、新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、変更する可能性があります。もし、変更が生じたら、授業内で連絡します。)	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 ガイダンスと金融機関の役割 内 容: 金融経済学Ⅰで教えた直接金融と間接金融を手掛かりにして、金融機関の役割を復習します。 参考書 1 第 8 章～第 10 章。参考書 3 第 1 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 金融機関の分類 内 容: わが国金融機関の分類を学びます。 参考書 1 第 8 章～第 10 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行業と銀行政策の歴史 内 容: わが国銀行業の歴史と、銀行に対する政策の歴史を学びます。 参考書 該当無し。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行の業務 内 容: 銀行の業務を学びます。 参考書 1 第 8 章。参考書 3 第 1 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行の財務諸表と財務指標 内 容: 銀行の財務諸表と、財務指標を学びます。 参考書 1 第 8 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):パート 2 (a) 銀行行動の理論 内 容: ミクロ経済学および応用ミクロ経済学で学んだ生産者理論を応用して、確実性下における銀行行動の理論モデルを学びます。 参考書 3 第 5 章

第7回	テーマ(何を学ぶか):パート2(a) 第5回の拡張 内 容:第5回で学んだモデルを拡張し、次の3つを議論します。(1)不確実性の導入、(3)貸出市場の描写、(3)人為的低金利政策 参考書3 第5章
第8回	テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 逆選択① 内 容:借り手企業の資金調達手段には、銀行借入以外に、社債発行や新株発行などがあります。しかし実際には、銀行借入が主な資金調達手段になっています。そこで「銀行借入には、他の資金調達手段にはない特殊性があるのではないか?」という疑問が浮かびます。 第8回～第10回では、最終的貸し手が最終的借り手に直接資金を貸す状況を取り上げます。この直接的な貸し借りは、さまざまな要因によって阻害されます。第8回では、逆選択という阻害要因を学びます。 参考書1 第4章。参考書3 第5章と第6章。参考書4 第2章、第4章と第5章
第9回	テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 逆選択① 内 容:逆選択が存在するときの貸出市場を学びます。第9回授業内で、小テスト(択一式)を実施する予定です。 参考書3 第5章
第10回	テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 金融取引の阻害要因 モラル・ハザード 内 容:モラル・ハザードという阻害要因を学びます。 参考書1 第4章。参考書3 第5章と第6章。参考書4 第2章、第4章と第5章
第11回	テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 阻害要因を軽減するための社会的工夫と銀行 内 容:第8回～第10回で教えた阻害要因を軽減するための社会的工夫を学びます。そして、この工夫と、銀行(貸し手側)の役割とを関連付けます。 参考書1 第4章。参考書3 第5章と第6章。参考書4 第2章、第4章と第5章
第12回	テーマ(何を学ぶか):パート2(b) 銀行のガバナンスと銀行への公的介入 内 容:銀行も民間企業の一種です。そこで、銀行(借り手側)と、預金者など利害関係者との間で、逆選択やモラル・ハザードが生じるかもしれません。銀行や銀行経営者を規律付けて、阻害要因を軽減するための社会的工夫を学びます。 参考書1 第14章。参考書3 第6章
第13回	テーマ(何を学ぶか):パート3 銀行のリスク 内 容:第7回～第12回の議論で、リスクが重要な役割を果たしました。リスクとその管理は、銀行の利害関係者にとって一大関心事です。そこで第13回～第15回では、リスクとその管理を学びます。 第13回では、銀行がどのようなリスクに直面しているかを学びます。 参考書1 第8章。参考書2 第1章
第14回	テーマ(何を学ぶか):パート3 銀行のリスク管理手法 内 容:銀行のリスク計測・管理手法を学びます。 参考書2 第4章
第15回	テーマ(何を学ぶか):パート3 地域銀行におけるリスク管理 内 容:地域銀行に焦点をあてて、特有のリスクとその管理を学びます。 参考書2 第6章
試 験	期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などについては授業内で連絡します。

〔科目名〕 国際金融論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 中條 誠一 Seiichi Nakajo	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 国際金融の基礎理論を踏まえて、実際に国際金融の業務がどのように行われているかという基本的な実務と現代の世界経済が直面している現実の問題を理解するための授業である。したがって、講義は国際金融の理論、実務、現実問題の3部構成から成っているが、いずれも初学者でも理解できるような分かりやすいものとする。 特に、他の国際金融論の授業と異なるのは、最先端の国際金融の実務を取り上げ、平易にその仕組みを解説することによって、受講者が実際に活用できるような「現実に関与する国際金融論」となっている点である。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現代の世界経済は、グローバル金融資本主義などと呼ばれるように、物やサービスの取引に必要な額を上回る資金がうごめき、たびたび国際金融における混乱が危機を発生させている。その影響は、われわれの日常生活にも及んでおり、国際金融の重要性が高まっている。 そうした中では、グローバルな世界を舞台にした国際金融取引の原理や実態、それがもたらす混乱や危機を把握することが、国際人を目指す学生はもとより、国内ビジネスに従事する場合にも、一般常識として不可欠となっている。グローバル社会を生き抜くうえで必要不可欠な知識として、この講義を活用して欲しい。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 (1) 国際金融の基礎理論全般を理解すること (2) 理論と現実の相違を明確に理解することによって、実際のビジネスにおいて、国際金融の理論をどのように活用すれば収益を得られるかを理解すること (3) 現実に関与している国際金融問題について、理論を踏まえた理解ができること 具体的には、国際金融の理論、実務、現実問題のそれぞれに関する新聞や雑誌などの記事をスムーズに理解できるようにすること。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 過去の授業評価で、講義が聞き取りにくかったとの声が聞かれた。そこで、毎年受講生に私語を慎むように注意を促すとともに、大きく明瞭な発声を心掛けた。その結果、もともと平易な講義内容のものが聞き取りやすくなり、分かりやすいとの評価を得たので、今年度も継続したい。		
〔教科書〕 中條誠一『新版・現代の国際金融を学ぶ』勁草書房		
〔指定図書〕 レポート提出課題本:中條誠一『ドル・人民元・リブラー通貨でわかる世界経済』新潮新書		
〔参考書〕 藤田・上川『現代の国際金融論』有斐閣		
〔前提科目〕		

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 基本的には、期末テスト（100 点満点）によって評価する。 ただし、授業は双方向方式を取り入れて行うため、適切な質問や回答に対しては加点する。 さらに、授業参加および貢献点、レポートの点数を加点する。 加点部分の配点は、授業の開始時に提示する。 なお、履修者が少ない場合には、期末テストを行わず、レポートなどで評価することもあり得る。	
〔評価の基準及びスケール〕 メインとなる期末テストは、授業中に対象となる複数のテーマを指摘し、かつそのテーマについてのポイントを明確に講義する。計算問題については、授業中にも、簡単な例題を出して、練習してもらいたい。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ともすれば、国際金融論は理論と実務や現実が乖離しており、分かり難いとか、実際に役立たないという声を多く聞く。その溝を埋め、実際に日常生活で使うことができ、役立つ国際金融論の講義にしたい。 そのために、たえず理論を実務や現実問題と関連付けながら講義をするので、受講生は新聞、雑誌、TVなどを通じて、国際金融に関わる動きをウオッチし、問題意識を持つように心がけてもらいたい。	
〔実務経歴〕 総合商社での国際的な金融業務の経験を活かし、為替レート予想、国際資金調達や運用の仕方などを授業に取り入れたい。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):国際収支の仕組み 内 容: 国際的にどんな取引がなされているのかを国際収支表から見てみる 教科書・指定図書 :指定の教科書、関連資料を配布
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):為替レートの国際収支調整機能 内 容:為替レートによって、どうすれば国際収支は調整できるのか、現実にはどうかを見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):国民経済と国際収支 内 容:経済全体から国際収支を見るI－Sバランス論とその現実的意義を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):購買力平価説 内 容:伝統的な為替レート決定理論とその現実的意義を見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):アセット・アプローチ理論 内 容:新しい為替レート決定理論とそれによって為替レートをどう予測すればよいかを考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):金利平価説と金利裁定取引 内 容:金利平価の成立メカニズムと現実には利益を得るための方法を理解する 教科書・指定図書:指定の教科書

第7回	テーマ(何を学ぶか):国際金融市場とその機能 内 容:国際金融市場の概要とその機能について考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第8回	テーマ(何を学ぶか):先物取引 内 容:デリバティブ取引のひとつである先物取引の仕組みを知り、どのように使えばよいかを考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第9回	テーマ(何を学ぶか):通貨オプション 内 容:デリバティブ取引のひとつである通貨オプションの仕組みと使用の仕方を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第10回	テーマ(何を学ぶか):通貨スワップ 内 容:デリバティブ取引のひとつである通貨スワップの仕組みと使用方法を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第11回	テーマ(何を学ぶか):基軸通貨・ドルとアメリカの「法外な特権」 内 容:世界の基軸通貨であるドルを発行することでアメリカが得ている特権と問題を考える 教科書・指定図書:配布資料
第12回	テーマ(何を学ぶか):通貨統合とユーロ危機 内 容:通貨を統合するとはどういうことかとユーロ危機の原因と対応について見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書、配布資料
第13回	テーマ(何を学ぶか):黄昏の通貨・円は、再び輝きを取り戻せるか 内 容:円安の効果を正しく評価し、そのメリットを日本経済の再生につなげる方法を探る。 教科書・指定図書:配布資料
第14回	テーマ(何を学ぶか):お金(通貨)とは何か 内 容:今、新しい通貨として、デジタル通貨が注目されている。国際金融にも大きな影響を与えると思われるデジタル通貨を理解するために、そもそも「通貨」とは何かを考えてみる 教科書・指定図書:配布資料
第15回	テーマ(何を学ぶか):「未来の通貨」(デジタル通貨)とは？ 内 容:未来の新しい通貨はどのようなものか。私たちの生活はどう変わるのかを考えてみる。 教科書・指定図書:配布資料
試験	

〔科目名〕 公共政策論	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 選択
〔担当者〕 木立 力	〔オフィス・アワー〕 時間:開講時に案内 場所:研究室	〔授業の方法〕
〔科目の概要〕 2 年次の「マクロ経済学」では主にIS・LMモデルを学んだと思います。そこでは国債発行を財源として政府支出を増やしたり、減税したり、貨幣供給を増やすことでGDPが拡大します。どのような場合にも、政府支出は多いほど、税金は安いほど、貨幣供給は多いほどGDPは高まるのでしょうか。 このモデルは不況下の一時点の分析には適していますが、このモデルに基づく政策は経済成長にはむしろ悪影響を及ぼすのです。 この講義では、第1に、「マクロ経済学」の講義で学んだIS・LMモデルや静学的な古典派モデルと経済成長モデルを対比し、どの経済状況のときにどのモデルが適しているか、どの政策が適しているかを検討します。 少子高齢化は長期の動きなので、実は経済成長モデルの分析が有効です。この講義では、第2に少子高齢化に関する政策を経済成長モデルを用いて考察します。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 2 年次で学んだマクロ経済学でとりあげられた静学モデルと経済変動論でとりあげられた動学モデルとの比較を行う。 この講義では、少子高齢化のもとでの経済政策を、経済成長モデルの観点から考察し、短期モデルによる経済政策との違いを明らかにする。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 最終目標は、日本の少子高齢化社会でのマクロ経済政策のあり方について、現実の経済政策との違いを批判的に考察すること。 中間目標は、第1に、経済成長モデルをよく理解すること。第2に少子高齢化問題への経済成長モデルの適用について考察すること。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 昨年のこの講義のアンケートでは、日本の経済政策との関連について説明したことが好評価を得ていた。本年も経済成長のモデル分析と現実の日本の経済政策との関連を解説したい。出席点も成績評価に大きく影響する。		

〔教科書〕 なし	
〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 マンキュー『マクロ経済学Ⅰ』『マクロ経済学Ⅱ』必要箇所は配布する。	
〔前提科目〕 マクロ経済学を前提とする。経済変動論を履修済みであることが望ましいが前提ではない。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) モデル分析に関する数回のレポート提出を求める。 成績評価は主に期末試験の結果によるが、毎回出席をとり、出席点との合計によって決める。 期末試験が3分の2、出席点が3分の1。	
〔評価の基準及びスケール〕 80 点以上 A, 70 点以上 80 点未満 B, 60 点以上 70 点未満 C, 50 点以上 60 点未満 D, 50 点未満 F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 理論モデルによる分析と現実との対応を考えるようになってほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 短期マクロモデルの復習 内 容: 短期のマクロモデルの復習 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅰ
第2回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルの復習 内 容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第3回	テーマ(何を学ぶか):短期モデルと長期モデルの前提の比較 内 容: 作成資料

第4回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルにおける貯蓄率の変化と財政赤字 内 容: 参考書・マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第5回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルにおける人口成長率と少子化問題 内 容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第6回	テーマ(何を学ぶか):ケインズの消費関数とライフサイクル貯蓄仮説 内 容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第7回	テーマ(何を学ぶか):ケインズの消費関数と恒常所得仮説 内 容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第8回	テーマ(何を学ぶか):サムエルソン消費貸借モデル 内 容: 作成資料
第9回	テーマ(何を学ぶか):重複世代モデル 内 容: 作成資料
第10回	テーマ(何を学ぶか):人口ボーナスと人口オナーズ 内 容: 作成資料
第11回	テーマ(何を学ぶか):少子化と移行世代 内 容: 作成資料
第12回	テーマ(何を学ぶか):重複世代モデルにおける公的年金 内 容: 作成資料
第13回	テーマ(何を学ぶか):全体の復習 内 容: 作成資料
第14回	テーマ(何を学ぶか):全体の復習 内 容: 教科書・第7章
第15回	テーマ(何を学ぶか):全体の復習 内 容: 作成資料
試 験	12回目までの内容について試験を行う

〔科目名〕 経済特殊講義Ⅳ(経済学説史)	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 中井 大介 Daisuke Nakai	〔オフィス・アワー〕 時間: 授業の前後で受け付けます。 場所:	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 アダム・スミスにはじまり、マーシャルやケインズを経て現代へと至る、経済学の歴史を概観します。各回1～2名の重要な経済学者をピックアップし、彼らの学説とその現代的意義について検討します。とくに、ミクロ経済学とマクロ経済学が形成された歴史的プロセス、あるいは非主流の経済学の特徴などに注目します。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 経済学が発展してきた歴史的経緯を学ぶことで、経済学の全体像を把握することが可能になります。また、ミクロ経済学とマクロ経済学のそれぞれの特徴や両者の関係などについても、より正確に理解することが可能になります。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ・中間目標 当面の目標は、経済学の誕生から現代へと至る経済学の歴史に関する基本的知識を、受講者各自が習得することです。 ・最終目標 長期的な目標は、数理的・理論的アプローチとは異なる、過去の経済学の思想的・哲学的アプローチから、現代の経済問題解決への糸口を探ることです。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 講義中課題等を通じて、質問受付やフィードバックの機会を増やす予定です。		
〔教科書〕 毎回プリントを配布するため、教科書は使用しません。		
〔指定図書〕 特になし。		
〔参考書〕 授業中に読書案内として適宜紹介します。		
〔前提科目〕 特になし。		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 講義中課題とレポート課題から総合的に評価します。		
〔評価の基準及びスケール〕 評価 得点比率 A 80%～100% B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 50%～60%未満 F 50%未満		

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 配布のプリントとスライドを用いて授業を進めますが、講義内容をよりよく理解するためには適宜メモなどをとることが有用であると思います。また、講義スケジュールは変更する場合があります。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 講義計画や目的について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第2回	テーマ(何を学ぶか): スミスと経済学の誕生 内 容: 経済学誕生の歴史的背景やスミスの学説について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第3回	テーマ(何を学ぶか): リカードとマルサス 内 容: リカード・マルサスの学説や穀物法論争・人口問題について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第4回	テーマ(何を学ぶか): ミルと古典派経済学の完成 内 容: 古典派の特徴や定常状態について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第5回	テーマ(何を学ぶか): マーシャルとミクロ経済学 内 容: ミクロ理論誕生の歴史的背景について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第6回	テーマ(何を学ぶか): ピグーと厚生経済学 内 容: 厚生経済学のルーツについて 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第7回	テーマ(何を学ぶか): ケインズとマクロ経済学 内 容: マクロ経済学誕生の歴史的背景やケインズの学説について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第8回	テーマ(何を学ぶか): マルクスと社会主義・共産主義 内 容: 社会主義誕生の歴史的背景やマルクスの学説について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第9回	テーマ(何を学ぶか): ヴェブレンと大衆消費社会 内 容: 大衆消費社会の形成と顕示的消費のアイデアなどについて 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第10回	テーマ(何を学ぶか): シュンペーターとイノベーション 内 容: 創造的破壊などの概念やシュンペーターの経済社会観について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント

第11回	テーマ(何を学ぶか):サミュエルソンと新古典派総合 内 容:ミクロ経済学とマクロ経済学の関係について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第12回	テーマ(何を学ぶか):フリードマンとマネタリズム 内 容:リバタリアニズムやマネタリズムの学説について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第13回	テーマ(何を学ぶか):前半のまとめ 内 容:第2回から第7回の復習(課題研究によって実施します) 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):後半のまとめ 内 容:第8回から第12回の復習(課題研究によって実施します) 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):全体のまとめ 内 容:経済学説史全般について(課題研究によって実施します) 教科書・指定図書
試 験	講義中課題とレポート課題から総合的に評価します。

〔科目名〕 地域と産業政策	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 選択
〔担当者〕 安田公治	〔オフィス・アワー〕 時間: 別途告知する 場所: 1212	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 本科目では地域における産業政策に対して、青森県と他地域の産業構造を比較したうえで、どのような政策が望ましいかについて学びます。講義の前半では特に地域とは何かを改めて理解し、地域における雇用・通勤圏、商圏がどのように分布しているか、都市の集積が起こることによるメリットとデメリットなどについて学びます。また独占企業の行動などについてもミクロ経済学の知識にも触れながら説明を行い、独占や寡占を考えるうえで企業が市場に与える影響力をどのように測るのかについても説明します。後半では産業連関表の見方を知り、それをもとに地域の基盤産業が何であるかの見分け方も学びます。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 地域における雇用・通勤圏、商圏などの実際に経済活動が行われる範囲は必ずしも、都道府県、市町村などの自治体の行政区画と一致しません。経済活動が行われる圏域と行政区画の違いを無視して産業政策がなされると、実態と合っていない誤った政策となってしまう可能性があります。地域の産業政策を考えるうえでは、このような地域や都市の構造を把握することが重要となります。本科目では地域や都市の構造の違いを知り、適切な産業政策は何かを学びます。また地域の発展にはお金を稼げる産業である基盤産業の育成が大事になりますが、何が基盤産業となるかの判断基準の1つとして産業連関表を用います。特に後半では産業連関表から基盤産業を判断できるように講義を行います。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標:地域や都市の空間的な構造を理解する。 最終目標:異なる地域の構造に対して、適切な産業や政策を判断できるようにする。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 「一方通行であったので途中で理解しているかの確認をしてほしい。」という指摘について。今後特に途中で質問等を行い、双方向の授業を心がけます。		
〔教科書〕 指定しない		
〔指定図書〕 指定しない		
〔参考書〕 講義内で必要に応じて紹介		
〔前提科目〕 特になし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 中間試験(配点 30%) 期末試験(配点 70%) ・出席状況 講義のうち 5 回欠席したものは、レポート・試験の点数にかかわらず F 評価とします。		

〔評価の基準及びスケール〕 A:80%以上 B:70～79% C:60～69% D:50～59% F:50%未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 地域経済や地域の産業を理解するうえでは1地域のみに目を向けていては十分な理解を得られません。講義では青森県や青森市の事例も扱いますが、東北だけではなく全国の様々な地域や都市の構造に目を向けて、地域や産業間のつながりを理解するように心がけてください。 また講義内でランダムに質問をしますので、自分自身で考えて回答することを意識してください。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 地域とは何か 内 容: 地域区分、都市圏・商圏 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 都市化の概念とプロセス 内 容: 都市の形成、人口変動 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 都市集積の経済 内 容: 都市集積のメリット、デメリット 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 都市内部の土地利用 内 容: 都市内部の企業、オフィス、住宅の立地がどのように決まるか。付け値地代理論。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 都市計画 内 容: 少子高齢化、都市計画マスタープラン、コンパクトシティ、移住促進政策 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 私的独占(1) 内 容: 自然独占、私的独占、市場支配力 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 私的独占(2) 内 容: 代替財、市場画定 教科書・指定図書
第8回	中間試験

第9回	テーマ(何を学ぶか):規制緩和と交通政策 内 容:規制緩和・民営化、公共交通 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):農業とICT化 内 容:地域の農業政策、既存産業へのICTの活用 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):垂直的統合と6次産業化 内 容:垂直的統合、農業の6次産業化、マーケティング 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):21世紀以降の産業政策 内 容:産業クラスター政策、官民連携 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):まちの経済の成り立ち 内 容:中間財・最終財、地域経済の循環と漏れ 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):まちの経済の見方 内 容:基盤産業の見極め、特化係数、産業連関表の作成 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):まちの構造改革 内 容:実際の産業連関表を見て地域の問題を理解する。 教科書・指定図書
試 験	筆記試験(配点70%、講義資料・自筆ノートのみ持ち込み可)

〔科目名〕 自治体政策法務論	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 選択科目
〔担当者〕 遠藤 哲哉 Endo Tetsuya	〔オフィス・アワー〕 時間:授業時間以外、随時 場所:大学院棟、1301 研究室	〔E-mail〕 tetsuya@b.nebuta.ac.jp
〔科目の概要〕 地域社会の諸問題を解決し、公共善を実現するために、公共政策イノベーションとそれを担う新しいリーダーシップが求められている。地方創生の分権時代において、自己決定のチャンスを広げる制度とシステムが作られ、公共政策を創造する時代である。そこには、自己責任と能力の向上もまた必要である。本科目では、分権時代を確かなものとし、そこに生き、一人ひとりが優れた地域リーダーとして自己の成長を遂げうる道筋を、広い意味での政策法務の立場から明らかにしていきたい。具体的には、政策法務論、政策経営の諸理論、関連する財務の考え方を踏まえ、分権時代の地域経営、市民社会に基づく公共経営について、政策企業家的な観点から、公共政策イノベーションの創出を実現する諸方策を論じていく。 地域社会に生きる人々の生命と安全を守り、全ての人々が幸せでやりがいのある仕事を行い、住みよい社会を創造していくために、どのような政策法務と地域マネジメントを行っていけば良いか。それらは、地域政治、行政及び経済の課題であると同時に、我々一人ひとりの行動や志にかかっている。特に今日では、社会起業家の頭頭に焦点があてられることがあるように、地域に生きる人々一人ひとりの創意工夫、活力、ケアの精神、そしてまた政策起業やイノベーション創発のための場づくり（コミュニティ形成）等が重要である。 具体的には、自治体政策法務の基本的な考え方を学びつつ、非営利団体、NPO・NGO、企業とのパートナーシップの内容や動向を紹介し、学際的観点から地域社会における政策法務の在り方を明らかにし、その活用の仕方を考える。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」〕 政策法務は、様々な領域と深く結びついている。なぜならば、市民自治の下で、地域に生きる人々の豊かな生命を育み、新たな地域社会の未来を創造するための営みに関係しているからである。地域の一人ひとりが主役であり、潜在的な可能性を引き出し、日々成長を続け、新しい自己と地域社会を創造していくのである。そのために、なにが必要となるか、関連諸科学の成果を活用し究明していく。 したがって、この科目では、地域社会において重要な役割を果たしている政策法務について、主として政策法務、行財政法務、市民自治等の観点から把握し理解を深める。そのために、自治体政策法務に隣接する諸科学の成果をも援用しつつ、学際的にアプローチする予定である。この科目を学ぶことによって、諸君は、地域社会に生きる一市民として、自治体政策法務の役割と意義を再検討することが期待される。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 最終目標 政策法務の様々な動向を踏まえて、さらに改革を行っていく上で必要と思われる内容を、政策起業家、関連する社会科学の諸観点から理解する。 中間目標 政策法務に関連する地域イノベーション、地域政策の具体的ケースを、事例に沿って理解し、その意義と役割について、理解を深める。特に、近年の財政危機の中にあつて、様々な政策改革動向が存在している。その実態を知ることによって、将来の改革展望についての認識を新たにできる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・新設の科目である。		
〔教科書〕 オリジナルの資料を使用します。 なお、授業中、指定文献、参考図書等の読書を課します。		

〔指定図書〕 駒崎弘樹『政策起業家：「普通のあなた」が社会のルールを変える方法』ちくま新書 磯崎初仁『自治体政策法務講義』第一法規、2018年。	
〔参考書〕 磯崎初仁『立法分権のすすめ：地域の実情に即した課題解決へ』ぎょうせい 五十嵐敬喜他『美の条例』学芸出版社 鈴木康夫『自治体法務改革の理論』勁草書房 田中孝男『自治体法務の多元的統制』第一法規 天野巡一他『自治体政策と訴訟法務』学陽書房 中邨章『自治体主権のシナリオ：ガバナンス・NPM・市民社会』芦書房 山口道昭『入門 地方自治』学陽書房 菊池理夫『共通善の政治学：コミュニティをめぐる政治思想』勁草書房 松下圭一『市民自治の憲法理論』岩波新書 野口和雄『まちづくり条例の作法：都市を変えるシステム』自治体研究社 木佐茂男『わたしたちのまちの憲法』日本経済評論社 遠藤宏一『現代自治体政策論』ネルヴァ書房 随時、授業中に紹介します。 沢山の参考書を紹介するので、この機会に読破して欲しい。	
〔前提科目〕 なし。自治体経営論、行政経営論と関連する。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・ 不特定日に授業後、簡単な授業レポートの提出か小テストを行う予定です。 ・ 評価は、試験、授業レポート、小テスト、授業中の参加態度、意見等を総合的に見ます。	
〔評価の基準及びスケール〕 ・ 試験、授業レポート、小テスト、及び授業への参加度等、全体を通して評価します。 なお、配点等は、授業時に説明します。 A: 100～80点 B: 79～70点 C: 69～60点 D: 59～50点 F: 49点～	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 グローバリゼーションと少子高齢化、情報化の進展という社会の構造変動の中で、どのような地域社会を構想していけば良いか、未来の地域社会を、政策起業や政策法務の観点から検討するものです。 政策法務の動向を知り、理解を深めて下さい。また、この科目をきっかけに、実際に地域づくりの現場に行ったり、多くの関連書籍、文献を読破して、見聞を広めて欲しいと思います。なお、英文の資料も、使用します。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション～自治体政策法務論の射程 内 容: 科目の概要、自治体政策法務、政策起業、地域価値創造、地域社会の再創造 教科書・指定図書 資料配布
第2回	テーマ(何を学ぶか):新たな地域社会への模索 内 容: 自治体政策法務と地域経営(1) 教科書・指定図書 資料配布

第3回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 自治体政策法務と地域経営(2) 教科書・指定図書 資料配布
第4回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 自治体政策法務と地域経営(3) 教科書・指定図書 資料配布
第5回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 自治体政策法務と地域経営(4) 教科書・指定図書 資料配布
第6回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 地域社会課題と政策(1) 教科書・指定図書 資料配布
第7回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 地域社会課題と政策(2) 教科書・指定図書 資料配布
第8回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 中間まとめ 内 容: 自治体政策法務の課題と再編振り返り(中間テスト) 教科書・指定図書 資料配布
第9回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 地域社会課題と政策(3) 教科書・指定図書 資料配布
第10回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 地域社会課題と政策(4) 教科書・指定図書 資料配布
第11回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 地域社会課題と政策(5) 教科書・指定図書 資料配布
第12回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 地域社会課題と政策(6) 教科書・指定図書 資料配布
第13回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 地域社会課題と政策(7) 教科書・指定図書 資料配布
第14回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と再編 内 容: 地域社会課題と政策(8) 教科書・指定図書 資料配布
第15回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の課題と展望 内 容: まとめ 教科書・指定図書 資料配布

[科目名] 環境ビジネス論		[単位数] 2 単位	[科目区分] 専門科目
[担当者] 平井太郎	[オフィス・アワー] オフィス・アワーは設けませんので、授業中に質問していただくか、メールでお問い合わせください。		[授業の方法] 講義
[科目の概要] 青森県内のさまざまな事例をもとに、地方・農村における地域づくりにかんする基本的な考え方を学ぶ。特に基本にすえるのは、アクションリサーチという手法だ。実際にアクションリサーチを青森のさまざまな現場の人びとと進めた軌跡を学生と共有することで、学生自身も現場で地域づくりの担い手として活躍するためのポイントを体得してほしい。			
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 現在、地域社会では、現場の話し合いを通じた課題解決が求められている。この授業が核にすえるアクションリサーチこそ、そのように求められている話し合いをうまく進める手法の1つに他ならない。			
[科目の到達目標(最終目標・中間目標)] 地域の課題解決にむけた話し合いをうまく進めるために、「課題よりも目標」「尊重の連鎖」「周辺的な存在の連鎖的な尊重」「根をもつことと翼をもつこと」「4Dサイクル」といった基本的な考え方を学んだうえで、自分自身で実践できるようになること。			
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]			
[教科書] 平井太郎『地域でアクションリサーチ』(農文協、2022 年刊)			
[指定図書] なし			
[参考書] なし			
[前提科目] なし			
[学修の課題、評価の方法](テスト、レポート等) 毎回、講義にかんする学修成果と質問を内容とするリアクション・ペーパーを提出する。リアクション・ペーパーに記載された学修成果と質問から理解度と達成度を評価する。			
[評価の基準及びスケール] 5段階(A、B、C、D、F)で評価する。			

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学生のみなさんの素朴な疑問を大切にする。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 今、なぜアクションリサーチが求められているのか 内 容: 現在、地域の課題解決をめぐる話し合いが求められている。その背景には現代社会特有の閉塞感がある。それを解きほぐす1つの手がかりとしてアクションリサーチがある。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): なぜアクションリサーチを通じて現場の不全感は解きほぐせるのか 内 容: アクションリサーチのポイントの1つは、グループで課題解決に取り組むと、個々人でやるよりうまくいきやすいということだ。もう1つのポイントは、そうしたグループの力を引き出すための工夫だ。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 私たちにとってアクションリサーチは未知の方法なのか 内 容: アクションリサーチは戦時下の米国で生まれた。だが、日本にはほぼ同時代、戦後直後に持ちこまれていた。それから現在まで、主に農村部の女性たちによってアクションリサーチは育まれてきた。 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 3つの空洞化を乗り越えるには 内 容: 現在の地方はヒト・トチ・ムラという3つの空洞化に襲われている。同時に、アクションリサーチが注目するのは、3つの空洞化の先にある、誇りの空洞化だ。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 地域おこし協力隊からアクションリサーチが始まる 内 容: この10年、地域おこし協力隊という仕組みが、地方に大きな力を与えてきた。特にアクションリサーチと結びつくと、地方では無理だという思い込みの打破につながる。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 農業栄えて農村減ぶ、をどう乗り越えるか 内 容: 農業については規模拡大や高付加価値化が必要だと言われてきた。しかし、その結果、足許の農村の人口は急減し、農村らしい祭や景観も失われている。では、どうしたらいいのだろうか。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 総合的な計画をどう作ったらよいのか 内 容: 現在、地方自治体は国からさまざまな計画を立てるよう求められている。だが、意味のある計画を立てるのは意外と難しい。そこで頼りになるのが、田園回帰1%戦略という手法だ。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか): 目標をうまく共有するには 内 容: 地域づくりとアクションリサーチの第一歩は目標をうまく共有することだ。課題からでなく目標を見つけることが、現場に力を与える。特に大事なものは、まとめるのではなく、組み合わせるという発想だ。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか): 4D サイクルとは何か 内 容: 地域づくりとアクションリサーチの進み方の1つのモデルとして、4D サイクルと呼ばれるものがある。Discover-Dream-Design-Destine の4つを循環させる方法だ。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか): 尊重は連鎖する 内 容: 地域づくりとアクションリサーチを一步一步進めるには、現場で周辺的な存在とされている人たちが、現場の人たちから自発的に尊重する雰囲気を生むことだ。どうしたらそうした雰囲気が生まれるのか。 教科書・指定図書

第 11 回	テーマ(何を学ぶか):根をもつことと翼をもつこと 内 容:地域づくりとアクションリサーチが着実に成果を生むには、まず、自分たちの根を確かめてから、自ずと翼が生えてくるようなプロセスを踏むことが大切だ。 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):かけた時間は費用ではなく資本になる 内 容:地域づくりやアクションリサーチには時間がかかる。だがその時間は無駄ではない。不確実な未来を乗り越えるための資本になるからだ。 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):現代日本の農村におけるアクションリサーチの骨格 内 容:これまでの議論をふりかえりながら、今、農村で求められるアクションリサーチには、地域経済循環という1つの方向性があることを確認する。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):安心感のある場と「コミュニティ」 内 容:コミュニティについてはさまざまな見方がある。だが、その核心には、アクションリサーチで大事にしている安心感のある場づくりがある。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):コミュニティスタディからアクションリサーチへ 内 容:アクションリサーチはまだそれほど知られていない手法であり学問だ。だが、その出発点は、誰しもが関心を寄せ、希求するコミュニティに対する問いがある。 教科書・指定図書
試 験	なし

〔科目名〕 地域みらい 特殊講義Ⅲ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目(展開科目)
〔担当者〕 竹内 紀人 Takeuchi Norito	〔オフィス・アワー〕 時間： 非常勤講師につき、授業終了後など、随時 場所： 対応します。	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 地域金融の仕組み全般に関する基礎知識を学びながら、並行して、これからの地域金融について考える科目です。 地元銀行出身で銀行系シンクタンク及びコンサルタント会社の役員を経験した講師が具体的事例を交え、解説します。地域のお金の流れをつかさどる「地域金融機関」の本質的な役割を、地域振興の視点から皆さんに考えてもらうための特殊講義です。 前中盤の10回で、従来の地域金融機関の姿を知識として習得します。終盤の5回は、これからの地域金融についてディスカッションを含め、学修します。 本科目は、金融理論の講座ではなく、単なる金融業務の解説講座でもありません。地域経済との関連性に焦点を当て、地域金融の重要性や課題を皆さんが自身の頭で考える科目です。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目は地域経済、金融、財務など、他のさまざまな科目と関連します。 しかし、これまで何を学んできたか、現在、どれだけの専門知識を持っているかは問いません。 地域経済の活性化を目指していくためには、地域の中小企業や住民と最も近い距離で「お金」を扱っている地域金融機関の特性や課題を考えることが非常に重要です。 金融機関への就職を目指している学生はもとより、行政分野や地元民間企業などで「地域のため」に活躍したいと考えるすべての学生に、金融実務の経験者だからこそ伝えられることがあります。その点が本特殊講義の最大の特長です。 地元金融機関の統合が進むなど、かつてない環境変化が進んでいます。特に、金融分野にチャレンジしてみたい学生には、業界研究の一助にもなります。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 地域金融システム全般に関する基礎知識を身につけること。(中間目標) 地域経済活性化の視点を持ちながら、地域金融について意見を述べられるようになること。(最終目標)		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 地域金融を取り巻く環境は、これまでにないほど、急激に変化を遂げています。 毎年、講義内容については変更を加え、また時事的な話題も極力取り上げながら講義をしてきました。 基本的にこれまでの講義内容は高評価を得てきましたが、一昨年度、現状の環境変化に対応するため、大幅な内容の組み換えを実施しました。具体的には、知識習得の講義をコンパクトにブラッシュアップし、終盤の「これからを考える」時間を充実させました。 難解な専門用語がどうしても出てくる分野なので、わかりやすさと親しみやすさを旨とし、意欲的に予習復習に取り組めるよう、受講人数に合わせた柔軟な講義スタイルで進めていきます。自ら学ぶ要素を昨年度以上に強めていくつもりです。		
〔教科書〕 『捨てられる銀行4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 橋本卓典 講談社現代新書(2020.9) ISBN 978-4-06-520145-9		

〔指定図書〕 な し	
〔参考書〕 『地銀の次世代ビジネスモデル』 編著 大和総研 日経BP(2020.5) ISBN 978-4-8222-8989-8	
〔前提科目〕 ありません。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業内プレゼンテーション 30%、ディスカッション 20% 期末試験(記述式)50%の割合で評価します。 授業への取り組み姿勢が特に優れていると認められる場合は加点対象とします。	
〔評価の基準及びスケール〕 評価スケールは大学のスタンダードを基準とします。 総合的な学修に、出席は重要です。欠席が3分の1を超える場合は単位認定の対象外とします。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 毎年、10名に満たないくらいの比較的小規模なクラスとなるため、一人ひとりの顔が見える中での講義及びディスカッションとなります。仮に就職先としての金融機関には興味がなくても、世の中でお金が動く仕組みを少しでも知ってもらえれば、非常勤講師としてうれしいことです。 いずれにせよ、毎回の講義の積み重ねで理解し、考えさせる組み立てをしているため、極力欠席をしないよう心がけて欲しいと思います。	
〔実務経歴〕 地域金融機関ならびに銀行周辺の調査・研究・コンサルタント業務での実務経験を生かし、地域金融の仕組み全般を学び、考えさせる授業です。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ (何を学ぶか) : ガイダンス、地域金融概説 内 容 : 金融の役割、地域内の資金循環 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第2回	テーマ (何を学ぶか) : 近年における地域金融機関のビジネスを知る 1 内 容 : ディスクロージャー誌を読む 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第3回	テーマ (何を学ぶか) : 地域金融機関のビジネスを知る 2 内 容 : 地方銀行の具体的な業務 1 (資産運用系業務) 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第4回	テーマ (何を学ぶか) : 地域金融機関のビジネスを知る 3 内 容 : 地方銀行の具体的な業務 2 (融資系業務) 教科書・指定図書 : 教員作成資料

第5回	テーマ(何を学ぶか): 金融機関の種類と役割 1 内 容: さまざまな金融機関(業態の違いと役割) 教科書・指定図書: 教員作成資料
第6回	テーマ(何を学ぶか): 金融機関の種類と役割 2 内 容: ゆうちょ銀行、政策金融機関 教科書・指定図書: 教員作成資料
第7回	テーマ(何を学ぶか): 地域金融機関のビジネスモデル 1 内 容: 収益の仕組み～金融財務の基礎 教科書・指定図書: 教員作成資料
第8回	テーマ(何を学ぶか): 地域金融機関のビジネスモデル 2 内 容: 地方銀行の決算はどのように変化しているのか 教科書・指定図書: 教員作成資料
第9回	テーマ(何を学ぶか): 金融システムの安定性(自己資本比率・格付け) 内 容: 安心できる金融機関とは? 教科書・指定図書: 教員作成資料
第10回	テーマ(何を学ぶか): 金融環境の変化 内 容: 地域経済の変化ほか 教科書・指定図書: 教員作成資料
第11回	テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融 1 内 容: 金融政策(金融庁の監督方針)の変化 教科書・指定図書: 『捨てられる銀行 4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』&教員作成資料
第12回	テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融 2 内 容: 地銀再編はどこへ向かう 教科書・指定図書: 『捨てられる銀行 4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』&教員作成資料
第13回	テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融 3 内 容: 地域金融機関と地方創生 教科書・指定図書: 『捨てられる銀行 4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』&教員作成資料
第14回	テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融 4 内 容: 産学官金連携・・・感染する知性 教科書・指定図書: 『捨てられる銀行 4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』&教員作成資料
第15回	テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融 5 内 容: ネットワーク集合知 教科書・指定図書: 『捨てられる銀行 4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』&教員作成資料
試 験	記述式の期末試験を実施します。

〔科目名〕 異文化の理解	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 石本 雄大	〔オフィス・アワー〕 時間: 初回授業時に提示 場所: 同上	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 現代は多様な領域でグローバル化が進み、ここ青森でも実感することが多い。そのような現代に、異文化を理解することは他者との交流、協働、課題解決の基礎となる。加えて、他者との関係の更なる深化のためには、自文化(自己)の理解が不可欠である。この考えに基づき、本授業では様々なテーマを取り上げ、自文化(自己)および異文化(他者)について理解を深めることを目指す。 グローバル化の進展する現代では、各地で起こる食料問題、宗教対立、環境問題といった課題は世界規模で繋がり、各地で影響しあう。解決のためには、課題の全体像を世界規模で把握し、地域の文化社会的背景を理解することが重要となる。そこで本授業では、自文化(自己)および異文化(他者)の理解を深めるため、講義担当者の国内外でのフィールドワークや実務経験を交え、世界各地の事例を紹介し、その全体像や背景を学び、その解決策について論じる。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・なぜ、学ぶ必要があるか・・・自己および他者をより深く理解するため。 ・学んだことが何に結び付くか・・・世界各地で生じる諸課題の全体像や背景を学び、身の回りで起こる問題を客観視する訓練となる。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 本授業では次の3点を主な到達目標とする。 ・異文化(他者)についての知識及び理解を深める。 ・自文化(自己)についての知識及び理解を深める。 ・文献検索、情報収集、小論文執筆、口頭発表の技術を高める。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 問題点、改善要望とも特になしとのこと。 引き続き、授業内容の改善に務める。		
〔教科書〕 適宜資料を配布。		
〔指定図書〕 なし。		
〔参考書〕 講義の際にリストを提供。		
〔前提科目〕 なし。		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・授業(第1回～第15回のうち)の3分の2以上、つまり最低10回以上出席すること。 ・課題①②は各35点満点のレポート(合計70点) ・授業レポート2点満点/回×15回(合計30点満点) ※各課題・授業レポートの提出方法、採点基準は第1回の講義の際に説明予定		

〔評価の基準及びスケール〕 ・A:80%以上、B:70-79%、C:60-69%、D:50-59%、F:49%以下	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 真剣に授業を担当します。そのため、以下に該当した際には退室とします。 ・授業開始時間後10分以降の入室。 ・授業中の私語。 ・携帯電話の着信音が鳴った場合。 ・その他、授業を妨げる行為。	
〔実務経歴〕 国際協力機構(JICA)専門家の国際協力業務として日本とボツワナの研究・教育機関との国際共同研究プロジェクト運営に参画。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 授業概要 内 容: 授業全体の構成、評価の方法(課題、授業レポート、提出方法、採点基準)、課題の内容、授業の注意点を説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第2回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥ 食</u> 内 容: 世界と日本の食文化の多様性を例示し、歴史・風土との結びつきを概説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第3回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥ 食料問題</u> 内 容: 先進国一途上国の関係、南北問題について説明し、飢餓および飽食の問題について解説。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第4回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥ 環境と生業</u> 内 容: 世界各地の生業および食料生産を比較・事例紹介し、多様な自然・社会環境との関係性を解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第5回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥ 衣住</u> 内 容: 周囲の自然・社会環境と服飾や住居の関わりを紹介し、構造や機能を解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第6回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥ 宗教</u> 内 容: 世界宗教の歴史、対立、国内宗教の変遷について解説。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第7回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥ 家族とエスニシティ</u> 内 容: 世界各地の家族の在り方を紹介。加えて、文化を共有する社会集団や、そこで共有される意識を意味するエスニシティについて解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第8回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥ グローバル化と地域文化</u> 内 容: 多国籍企業によるモノ・カネ・情報のグローバル化や、そのローカル化による新たな文化を紹介。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第9回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑥ 貧困問題とセーフティネット</u> 内 容: 世界の貧困、日本の貧困について概説し、文化社会経済的背景について解説する。公的および非公的社会保障を紹介し、後者と助け合いの文化との関わりを解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供

第10回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑨ 人間社会と環境問題</u> 内 容: 過剰利用(土地劣化、砂漠化、漁業資源劣化、水質・大気汚染、温暖化)、低利用(森林荒廃)など生活の営みと環境問題の関連について解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第11回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑨ -1 移民および出稼ぎ(世界の事例)</u> 内 容: 移民や出稼ぎに関して事例紹介を行う。移民排斥、受容のメカニズムについて文化社会経済的背景を手掛かりに説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第12回	テーマ(何を学ぶか): <u>文化⑨ -2 移民および出稼ぎ(日本の事例)</u> 内 容: 日本からおこなわれた日系移民、近年増加する技能実習生、国内での移住や出稼ぎについて文化社会経済的背景を解説する。受容、排斥のメカニズムを検討し、相互理解の重要性を議論。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第13回	テーマ(何を学ぶか): <u>実践⑩ 国際協力とSDGs</u> 内 容: 様々な国際協力の取り組み、その近年の動向を、SDGsと関連付け、紹介。事業の実効性、取り組みの持続性の観点から解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第14回	テーマ(何を学ぶか): <u>実践⑩ 地域課題とまちづくり(日本)</u> 内 容: 過疎や高齢化など日本の農山漁村や地方都市における現状と今後の展望を解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第15回	テーマ(何を学ぶか): 総括「多文化社会に生きる」 内 容: 全講義をまとめ、異文化理解及び他者理解の重要性を総括する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
試 験	課題および授業レポートによって成績評価するため、一斉試験は実施しない。

〔科目名〕 地域企業論Ⅱ		〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 生田泰亮 IKUTA Yasuaki	〔オフィス・アワー〕 時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室(大学院棟)		〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 地域企業論Ⅱでは、地域企業の環境分析と戦略策定について学ぶ。具体的には『中小企業白書 小規模企業白書 2023 年版 上 変革の好機を捉えて成長を遂げる中小企業 』を取り上げ、これを読み解くことを中心に講義を進める。主に、統計データを読み、地域企業を取り巻く環境変化、最新の動向を読み解く力を身につける。また、教科書の進捗状況に合わせて、企業の経営課題や専門知識について解説していく。			
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 地域企業論Ⅰで学んだ内容を基本として進める。本講義は、多くの科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」である。関連づけ、反復することで「有効な思考法」を身につけるよう努力すること。			
〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕 (1)『中小企業白書』を読み解き、地域企業がおかれた社会、市場、産業などの動向を理解し「地域企業の環境分析」ができる。 (2)地域企業の経営政策、事業戦略について学び、その成果として「問題解決策の立案」としての「戦略策定」や「政策提言」ができる能力を養う。			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 教科書を事前に読んでいることを前提として講義を進める。しっかりと予習すること。 質問、相談等はいつでも受け付ける。講義中、講義終了後、アポイントを取った上でのオフィスアワーなど、遠慮なく。			
〔教科書〕 中小企業庁編『中小企業白書 小規模企業白書 2023 年版 上 変革の好機を捉えて成長を遂げる中小企業』日経印刷株式会社、2023 年。 他、適宜、資料を配布。			
〔指定図書〕			
〔参考書〕 塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男『経営管理[新版]』有斐閣、2009 年。 M. E. ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論(I) (II)』ダイヤモンド社、1999 年。			
〔前提科目〕 地域企業論Ⅰ（単位取得していること、必須条件）。			
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 課題レポート:50%、期末試験:50%（詳細は講義内で説明する） ※ 講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。			
〔評価の基準及びブスケール〕 80%以上 A 79-70% B 69-60% C 59-50% D 49%以下 F			
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 予習として、 <u>教科書の各回の指定範囲を必ず読み出席すること</u> 。 予習していることを前提に講義を進める。			
〔実務経歴〕 該当なし			

授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション、『中小企業白書』を読み解く (1) 内 容: 講義内容と進め方について(※ シラバスを必ず持参すること) 第 1 部第 1 章「中小企業・小規模事業者の動向」(1) ㊦ 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (2) 内 容: 第 1 部第 1 章「中小企業・小規模事業者の動向」㊦ 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (3) 内 容: 第 1 部第 2 章「激変する外部環境と中小企業の取組」 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (4) 内 容: 第 1 部第 3 章「中小企業の実態に関する構造分析」㊦ 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (5) 内 容: 第 1 部第 3 章「中小企業の実態に関する構造分析」㊦ 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (6) 内 容: 第 1 部第 4 章「中小企業におけるイノベーション」㊦ 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (7) 内 容: 第 1 部第 4 章「中小企業におけるイノベーション」㊦ 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (8) 内 容: 第 1 部第 5 章「地域内の企業立地」 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (9) 内 容: 第 2 部第 1 章「成長に向けた価値創出の実現」㊦ 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (10) 内 容: 第 2 部第 1 章「成長に向けた価値創出の実現」㊦ 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (11) 内 容: 第 2 部第 1 章「成長に向けた価値創出の実現」㊦ 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (12) 内 容: 第 2 部第 2 章「新たな担い手の創出」㊦ 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ (何を学ぶか):『中小企業白書』を読み解く (13) 内 容: 第 2 部第 2 章「新たな担い手の創出」㊦ 教科書・指定図書

第14回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く（14） 内 容：第2部第3章「中小企業・小規模事業者の共通基盤」① 教科書・指定図書
第15回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く（15） 内 容：第2部第3章「中小企業・小規模事業者の共通基盤」② 教科書・指定図書
試 験	※ 詳細については第1回および講義の中で説明する。

〔科目名〕 地域社会論Ⅱ	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 佐々木 てる Sasaki Teru	〔オフィス・アワー〕 場所: 時間:授業開始時に指示 場所: 授業開始時に指示	
〔科目の概要〕 青森県では少子高齢化が進み、人口減少、短命県などが問題として指摘されている。また、若者の県外流出なども今後の県の将来を考える上で重要な問題となっている。同時に青森県は地域文化や産業の点で日本を代表するものが存在する。そのため県の取り組みとしても「課題を克服」「強みをとことん生かす」ためのアイデアが重要視されている。 この授業では、上記のような認識を前提に、海外からの観光客の誘致、外国籍者の労働力の導入、国際的なマーケットへの参入、永住外国人の現状といった視点からそれらの課題を捉えなおすこととする。具体的には下記のテーマが中心となる。 (1)「交流人口」:インバウンドを中心とした海外からの観光客についての分析、ニーズの把握。 (2)「循環人口」:いわゆる単純労働で海外から来日、もしくは青森に来ている外国籍者の現実と実情。 (3)「共生人口」:人口減少地域に対応するための外国人、移民政策について。永住、帰化、国籍などに関して。 これら 3 つのテーマを学ぶことによって最終的には、日本型もしくは青森としての多文化共生、共創社会を構築していく視点を醸成させることにする。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 決定的な人口減少を迎えている青森県の住民として、その問題の根幹を理解し、解決するための手立てを考えることは急務の課題である。そしてそのことは、次世代を生きる人間としての責務であり、今まさに問われている問題といえる。 日本国内の人口減少を補う人材として、海外からの移住者の受け入れは一つの選択肢であり、そこで必要とされている議論を学ぶことは重要である。人口減少解決のための新しい視点を学ぶことができるだろう。そして同時にこのことはワールド・ワイドで活躍するための基礎となることを学ぶことにもつながる。そして海外から人に来てもらう、もしくは海外に青森を売り込む際に、授業で扱う題材を知ることは有益な情報となるだろう。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 人口減少という問題をもう一度捉えなおし、その根本問題、解決策を提示できるような思考を養う。特に海外からの人材の導入、もしくは海外への売り込みという視点を自分なりに発展させていくことが目標となる。同時に海外の事例を学び、日本社会に応用可能か、またその際の課題などを自らの視点で指摘できることも目標となる。 中間目標 前半は特に、人口減少問題のレビュー、県内の外国籍者の実態など基礎的な知識や考え方を学ぶ。そのため、グローバル化や市民権、多文化共生に関する理論的な視点も学んでもらう。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業終わりにコメント用紙を書いてもらい、そこでの指摘を授業に取り入れ、改善を行っていく。 コメント用紙の配分点のつけかたなど、成績評価の方法をより明確に提示する。特に第一回目の授業において方針を明確にしていく。		
〔教科書〕 特になし		
〔指定図書〕 特になし		
〔参考書〕 授業時に紹介する		
〔前提科目〕 特になし		

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。 ・授業中盤で確認試験を行い、理解度ををはかる。 ・最終に試験を行う。出題内容は授業内容に関するもの。 主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 毎回出席はとる予定である。そのため当然のことではあるが授業は出席することが大前提である。 特に第一回目の授業は評価の方針、内容に関する確認などを行うため、本講義を受講予定のものは必ず出席すること。	
【評価の基準及びスケール】 ・試験 60%、コメント用紙・小テストを 40%として採点する。 A～F の評価は本学の規定に準ずる。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 なによりも自分の住んでいる地域の文化や産業について、積極的に興味を持ち、知識を増やしてほしい。授業で伝えたこと以外でも、興味のあることを自分自身で調べる姿勢が望まれる。 また知り得た知識や考えなど、意見を求める機会も与える予定でいるので積極的に発言してほしい。自分と周囲に住んでいる人、自分が住んでいる社会について、主体的に働きかける気持ちを常にもって授業に参加してほしい。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ： 世界から青森へ、青森から世界へ 内 容： ガイダンス 導入として人口減少対策としての外国人・移民政策の必要性を学ぶ
第 2 回	テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(1) 内 容： 人口減少問題の根幹:理論的視点を考える。また労働力確保の方策としての ICT の導入と外国人労働者の導入について考える。
第 3 回	テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(2) 内 容： 外国籍労働力を日本に積極的に導入するにあたり、その前提となるような外国人・移民政策についての理論的な視座を紹介する。
第 4 回	テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(3) 内 容： 前回に引き続き、外国籍労働者・移民は人口減少対策の切り札になるのかを考える。特に市民権理論と多文化共生の理論を紹介し、外国籍労働者・移民の増加こともなう課題と問題を考える。
第 5 回	テーマ： 交流人口(1) 内 容： インバウンドとはなにか、その問題点を考える。特に青森県の事例を中心に挙げる。
第 6 回	テーマ： 交流人口(2) 内 容： 青森県内の祭を中心に、その国際性の在り方について考える。
第 7 回	テーマ： 循環人口(1) 内 容： 技能実習制度をとらえる。特に青森県、八戸市や弘前市の事例を中心に、技能実習制度とはなにかを学ぶ。
第 8 回	テーマ： 循環人口を考える(2) 内 容： 送り出し国の現状を紹介し、国際的な労働力移動について学ぶ。特にベトナムの事情を紹介する。
第 9 回	テーマ： 青森県の共生人口を考える(1) 内 容：三沢の米軍基地の事例、ネパール人の事例、永住フィリピン人と帰化の事例などを通じて青森の共生人口を学ぶ。

第10回	テーマ：青森県の共生人口を考える(2) 内 容：青森以外の永住者と共生に関する事例をとりあげ、青森県との比較を行う。
第11回	テーマ：グローバル時代の移民政策(1) 内 容：多文化共生に関する現状を、世界と日本を比較することによって学ぶ。特に理論的なものとしてエスニシティの概念を学ぶ。
第12回	テーマ：グローバル時代の移民政策(2) 内 容：世界の移民の事情などを海外の事例を通じて学ぶ。特にアメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドなどの事例を紹介する。
第13回	テーマ：多様性のある地域社会に向けて(1) 内 容：外国人・移民政策の根幹として国籍政策や帰化というものについて学ぶ。外国人から国民へ編入するための制度的な視点を学ぶ。
第14回	テーマ：多様性のある地域社会に向けて(2) 内 容：現在の日本の多文化、多民族的な状況を確認し、マルチ・エスニック・ジャパニーズという概念を学ぶ。
第15回	テーマ：青森から世界へ、世界から青森へ 内 容：青森県の強みを再度考え、課題を考察する
試 験	

〔科目名〕 経営革新論Ⅱ（事業創造論）	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕
〔担当者〕 生田泰亮 IKUTA Yasuaki	〔オフィス・アワー〕 時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室(大学院棟)	〔授業の方法〕 講義
〔科目の概要〕 これまで学んできた経営経済学の知識、理論、特に春学期の経営革新論Ⅰを基礎としながら、「事業を立ち上げ、継続させ、成果を得る」までのプロセスについて、以下の2点を踏まえながら、ケーススタディを中心に講義を行う。 （１）事業創造の基礎理論 「事業を立ち上げる」と言っても、容易なことではない。企業内での新規事業であれ、0からの起業であれ、事業を立ち上げるといふフェーズにおいては、① 事業領域の設定、② 新技術から製品化・アイデアのサービス化、③ 資金調達といった要点を同時に達成していかなければならない。具体的には、企業内での事業発掘、社内起業、コーポレート・ベンチャーキャピタル、クラウドファンディングなどを学ぶ。 （２）企業における事業創造 事業が軌道に乗り、製品やサービスの市場投入のフェーズに移行していくには、製品化に向けたプロダクト・イノベーションと生産性向上のためのプロセス・イノベーションの視点が重要となってくる。加えて「イノベーションのジレンマ」「キャズム」が示すように、超えなければならない「市場における壁や障害」がある。よって、事業をイノベーションとマーケティングの視点から考える。 基本的には、以下のような流れで講義を進行する。 ① 事前に予習課題に取り組む（教科書の予習範囲、事前の配布資料の熟読など）。 ② 講義内での教員からの説明、受講者とのディスカッションを通じて学習内容についての理解を深める。 ③ 各回の講義内容をもとに、新たな課題が出され、自身で調査、分析し、課題レポートとして提出する。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本講義は、経営経済学における様々な議論、概念、理論を基本としつつ「事業」にフォーカスして講義を進める。事業の概念を軸として、これまで学んできたことを再確認しながら、問い直すことで、これまでの学びをより深めることを期待したい。		
〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕 ・ビジネスを企画、構想するための基礎的な知識を身につける。 ・イノベーションとマーケティングの視点から事業を分析することができる。 ・これまでの様々な会社の事業、製品、サービスがどのように生み出され、認知され、普及したのか、その要点を分析し、まとめることができる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生の理解度を常に考慮しながら講義を進めていくことを心がけます。質疑等は遠慮なくどうぞ。		
〔教科書〕 小林敏男『事業創成 イノベーション戦略の彼岸』有斐閣、2014年。（春学期「経営革新論Ⅰ」教科書を使用）他、講義資料を配布する予定。		
〔指定図書〕 なし		
〔参考書〕 島田直樹『事業創造 理論と実践』WAVE 出版、2018年。		
〔前提科目〕 「経営革新論Ⅰ」を受講し、単位取得していること。		

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 講義時のディスカッション（予習、事前の課題などへの取り組みを含めて）・・・20% 課題レポート（複数回実施する）・・・80%	
〔評価の基準及びスケール〕 80%以上 A 79-70% B 69-60% C 59-50% D 49%以下 F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 3年秋の開講科目です。これまでの学習のまとめと応用という位置付けで講義を考えています。講義は事前の予習を前提とし、ディスカッションを中心に行います。予習内容をもとに学んだ内容を再確認するために、あるいは、自身の理解、閃きやアイデアを「他者に対して発言する」ことで、思考力や表現力を鍛えて欲しいと思っています。積極的な姿勢、旺盛な学習意欲を期待します。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ（何を学ぶか）： イントロダクション 内 容： 講義の進め方、概要について説明（※ シラバス持参のこと）。 教科書・指定図書
第2回	テーマ（何を学ぶか）： 企業における事業創造（1） 内 容： 事業創造とは何か？ 教科書・指定図書
第3回	テーマ（何を学ぶか）： 企業における事業創造（2） 内 容： 新技術、新規事業をいかにして生むか？ 教科書・指定図書
第4回	テーマ（何を学ぶか）： 企業における事業創造（3） 内 容： 新規事業への突破口 教科書・指定図書
第5回	テーマ（何を学ぶか）： 事業創造の基礎理論（4） 内 容： 新製品をいかに普及させるか？ 教科書・指定図書
第6回	テーマ（何を学ぶか）： 事業創造の基礎理論（5） 内 容： 事業と戦略的提携、3C から 4C へ 教科書・指定図書
第7回	テーマ（何を学ぶか）： 企業における事業創造（1） 内 容： ケーススタディ⑥ フランチャイズ・ビジネスの成長 教科書・指定図書
第8回	テーマ（何を学ぶか）： 企業における事業創造（2） 内 容： ケーススタディ⑥ 世界ブランドへの成長 教科書・指定図書

第9回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（3） 内 容：事業構築と事業成長 教科書・指定図書
第10回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（4） 内 容：ケーススタディ⑥ 半導体産業 教科書・指定図書
第11回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（5） 内 容：ケーススタディ⑥ 半導体と関連産業 教科書・指定図書
第12回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（6） 内 容：最先端技術の動向と産業構造の転換 教科書・指定図書
第13回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（1） 内 容：ケーススタディ⑥ 地方から全国、世界へ進出 教科書・指定図書
第14回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（2） 内 容：ケーススタディ⑥ 地方から全国、世界へ 教科書・指定図書
第15回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（3） 内 容：講義全体のまとめ 教科書・指定図書
試 験	※ 試験は実施しない。ただし、この期間に課題レポートの提出を課す予定。

〔科目名〕 民法	〔単位数〕 4 単位	〔科目区分〕 教養科目 (第2群)文化と社会
〔担当者〕 安藤 清美 ANDO, Kiyomi	〔オフィス・アワー〕 時間:講義の際に指示する。 場所:	〔授業の方法〕 講義形式中心
〔科目の概要〕 『六法』をご覧になれば分かるが、もっとも条文が多いのが民法であり、それも圧倒的に多い。民法は私たちが生きていくうえで必要な権利や義務について定めた法律であり、その関係も、国に対してではなく、私人間のものであるから、取り決めるべきことも多岐にわたっているのである。 ただ、いざ授業を進めるとなると、現時点では、全員が、憲法が最高法規であることは学んできたであろうが、では、条約と憲法とでは、どちらが優越なのか。内閣府令って何。省令って何。答えられるだろうか。 そこでこの授業においては、まずは「法とは何か」かからはじめることとし、次に、民法学の基礎を語りながら、その知識のうえに、実例、すなわち、私人間の争いで何が問題となったのか、いかなる判決が示されたか(判例)を総合的に見ていくようにしたい。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか」 民法は法学部に限らず、経済・経営・商学など、ほとんどの社会科学系の学部で必須の履修科目であり、それも当然で、金の貸借、物品購入、土地売却など、契約にかんする総ては民法に集約されている。では、そこで揉め事がおき、裁判になったらどうなるのか。誤解を恐れずに言えば、「法律は知らない者には味方しない」のである。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 判例を学ぶことによって民法に対する理解を深め、例えば、今現実に行っている事案等につき、法律にあてはめて考えられるようになる。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 なし		
〔教科書〕 佐伯仁志・大村敦志・荒木尚志編集代表『ポケット六法(令和5年版)』有斐閣(2023年)		
〔指定図書〕 なし		
〔参考書〕 講義中に紹介する。		
〔前提科目〕 なし		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 定期試験(80%)+課題(20%)		
〔評価の基準及びスケール〕 択一問題+穴埋問題+論述問題(80%)+レポート(20%)		

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 法学の導入部分-法とは何か、その特色や機能、社会における役割と作用(制度)はどのようなものか-につき、興味を持ってもらい、リーガル・マインド(法的思考)の基礎を修得すること及び、一番身近な法律である民法の基礎知識を身につけることを目標とする。 なお、内容によってはスケジュールが変更する場合がある。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンス、法とは何か 内 容:法と社会生活、法と道徳、法の目的、権利と義務、等 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第2回	テーマ(何を学ぶか):法と裁判 内 容:裁判制度、裁判所の組織、三審制度、民事裁判、刑事裁判、等 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第3回	テーマ(何を学ぶか):裁判の基準となるもの 内 容:法の分類、法の解釈、憲法と民法の関係、等 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第4回	テーマ(何を学ぶか):民法とは何か 内 容:民法の意義、民法典の構成、民法の基本原則、等 判例:宇奈月温泉事件(大判昭和10・10・5) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第5回	テーマ(何を学ぶか):権利の主体・自然人 内 容:権利能力・行為能力 判例:胎児の権利能力(大判昭和7・10・6) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第6回	テーマ(何を学ぶか):制限行為能力者 内 容:未成年者、成年被後見人、被保佐人、被補助人、等 判例:制限行為能力者の詐術(最判昭和44・2・13) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第7回	テーマ(何を学ぶか):権利の主体・法人 内 容:法人の種類、等 判例:法人による目的の範囲(最判平成8・3・19)、八幡製鉄献金事件(最決昭和43・6・24) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第8回	テーマ(何を学ぶか):権利の客体 内 容:不動産・動産、主物・従物、元物・果実、等 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第9回	テーマ(何を学ぶか):法律行為 内 容:心裡留保、虚偽表示、錯誤、等 判例:愛人への遺贈(最判平成8・3・19)、日産自動車事件(最判昭和56・3・24) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第10回	テーマ(何を学ぶか):法律行為 内 容:意思表示 詐欺または強迫 判例:94条2項の類推適用(最判昭和45・9・22) 教科書・指定図書 レジュメを配布する

第11回	テーマ(何を学ぶか):法律行為の代理とは 内 容:代理とは(種類、授与、顕名主義)、代理権、等 判例:親権者による代理権の濫用(最判平成4・12・10)、 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第12回	テーマ(何を学ぶか):無権代理・表見代理 内 容:無権代理の意義、表見代理の意義、等 判例:夫婦相互の日常家事代理権と表見代理(最決昭和44・12・18) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第13回	テーマ(何を学ぶか):親族 内 容:親族の範囲・類・親等、親族関係の変動、親族関係の効果等 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第14回	テーマ(何を学ぶか):婚姻の成立 内 容:婚姻の成立要件、婚姻の無効、婚姻の取消 判例:婚姻意思の不存在(最判昭和44・10・31) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第15回	テーマ(何を学ぶか):婚姻の効力 内 容:婚姻の一般的効果 判例:夫婦同氏の合憲性(最大判平成27・12・16) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第16回	テーマ(何を学ぶか):婚姻の効力 内 容:夫婦財産制 判例:こどもの学習用教材の購入に関する判例(東京地判平成10・12・2) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第17回	テーマ(何を学ぶか):婚姻の解消 内 容:死亡による婚姻の解消と離婚に寄る婚姻の解消、離婚制度 判例:有責配偶者による離婚請求(最大判昭和62・9・2)、配偶者の不貞行為の相手方に対する慰謝料請求権(最判平成8・3・26) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第18回	テーマ(何を学ぶか):婚姻解消の効果 内 容:再婚の自由、財産分与請求権、等 判例:財産分与額の算定(東京地判平成5・2・26) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第19回	テーマ(何を学ぶか):内縁 内 容:内縁の成立、内縁の効果、内縁の解消、など 判例:死亡による内縁解消と財産分与(最決平成12・3・10) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第20回	テーマ(何を学ぶか):親子-実子 内 容:嫡出子、嫡出でない子(非嫡出子)、等 判例:虚偽の嫡出子出生届と養子縁組の成否(最判昭和50・4・8) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第21回	テーマ(何を学ぶか):親子-養子 内 容:普通養子、特別養子、等 代理出産と親子関係(最決平成19・3・23) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第22回	テーマ(何を学ぶか):親権・扶養 内 容:親権とは、扶養の義務、扶養の順位、等 判例:連帯保証等と利益相反行為(最判昭和43・10・8)、老親扶養(広島家審平成2・9・1) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第23回	テーマ(何を学ぶか):相続の意義 内 容:相続の開始原因、相続開始の場所、相続回復請求権、等 判例:共同相続人間における相続回復請求権(最大判昭和53・12・20) 教科書・指定図書 レジュメを配布する

第24回	テーマ(何を学ぶか):相続人と相続分 内 容:相続人—配偶者、子・直系尊属・兄弟姉妹、等 判例:嫡出でない子の法定相続分(最大決平成 25・9・4) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第25回	テーマ(何を学ぶか):相続人の廃除、相続欠格 内 容:相続人の廃除、相続欠格とは、等 判例:推定相続人の廃除(東京高決平成 4・12・11) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第26回	テーマ(何を学ぶか):相続分 内 容:特別受益、寄与分、等 判例:死亡保険金と特別受益(最決平成 16・10・29)、寄与分の算定(東京高決平成元・12・28) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第27回	テーマ(何を学ぶか):承認・放棄 内 容:単純承認、限定承認、相続放棄、等 判例:相続放棄と登記(最判昭和 42・1・20)、熟慮期間の起算点(最判昭和 59・4・27) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第28回	テーマ(何を学ぶか):遺留分 内 容:遺言による相続分の割合、遺留分制度、等 判例:遺留分侵害額の算定方法(最判平成 21・3・24) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第29回	テーマ(何を学ぶか):遺言 内 容:自筆証書遺言、公正証書遺言、等 判例:自筆証書遺言の方式—押印(最判平成 6・6・24) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
第30回	テーマ(何を学ぶか):死因贈与 内 容:死因贈与とは 判例:死因贈与の撤回の可否(最判昭和 47・5・25) 教科書・指定図書 レジュメを配布する
試 験	定期試験(第1回～30回の講義内容を範囲とした、択一問題+穴埋め問題+論述問題)